明治四十三年四月一日發行（每月一回發行）
明治四十二年三月廿九日第三種郵便物認可

主幹 海老名彈正
主筆 安井哲子

要目

結婚の眞義 安井哲
古代獨逸人の間に行はれし一夫一婦の美風 日本女子大學講師 村田勤
月と戀愛 文學士 三澤糾
生物進化の話 理學士 谷津直秀
道德の基礎 海老名彈正
米國敎育家の兒童敎育意見
時事其折々

第貳卷第四號

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新女界第貳卷第四號目次

●結婚の眞義　安井哲子

想苑

●古代獨逸人の間に行はれし一夫一婦の美風　日本女子大學講師　村田勤

●月と戀愛　文學士　三澤糾

●生物進化の話　理學士　谷津直秀

●絶島の半日　有田ふぢらふ

家庭

●日記の効を知りたる私の實驗　元良よね

●米國教育家の兒童教育意見

講壇

●道徳の基礎　海老名彈正

雜録

●摘草集（新聞雜誌瞥見）

●時事其折々

●隨感　安井哲子、元良よね子

●編輯だより

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

▼一層の大發展▼四月雜誌界の花▼

婦女界

四月一日第二號 定價(二冊) 拾五錢 郵税一錢五厘 一年十二冊郵税共壹圓七十五圓

▲皇后陛下(御歌の解) ▲富美宮殿下御平生

▲私の最も感心した三婦人　伯爵 土方久元

▲私が新に妻を娶るとしたら斯んな注文がある　法、農學博士 新渡戸稲造

▲十年間歐米に於て獨立自營したる實驗……鈴木濱子

▲卅年間空閨を守り後顧の憂なからしめし私の妻の内助……山崎幾造

▲山縣公の智君を育てたる賢女小林カメ子刀自

▲猛火の中から七人の子供を救ひし實驗　本多さだ子

▲私の觀たる婦人の犯罪……花井法學博士

皇后陛下御親筆

御歌金砂子色紙形本號附錄

▲空想に沈める女(三色版)藤島武二 ▲ゆく春(石版)榊原蕉園

▲廿一人の子を生みて現に十二人を育てつゝある私の妻　鈴木梅吉

▲私はどうして良人の放蕩を矯正したるか　渡邊勝子

▲十六歳の少女で月給五圓の良人に嫁して五軒の家を建てし實驗　松岡げん

▲齒の養生を怠れば容貌を傷く……志村ドクトル

▲三十圓で一家を經營しつゝある實驗……某巡査妻

▲女の細腕で一萬圓を貯蓄した實驗　岡崎壚子

▲前號第三版賣切 ▲懸賞當選發表

發兌 東京神田表神保町 振替東京一三五番 同文館 電話本局特四三七 電話本局一五三九 各地書林

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

會員募集

共立女子職業學校

櫻友會內女子手藝普及會編

新學期開始

入會の最好機

女子手藝講義錄

◆ 東伏見宮妃殿下の御愛讀を辱ふす

好機會を逸せず即日入會せよ

本講義は婦人用家庭講義錄中のオーソリーチなり
本講義は老熟せる教員諸氏の執筆なり
本講義は理論こ實際を兼ね教授法頗る懇篤なり
入會者は頗る機敏に世の流行を逐ふ人なり

◆ 內容如斯豊富偉大なるを看よ

裁縫科(和服洋服古代服)編物科(各種)組糸科(各種)刺繡科(各種)袋物科(各種)造花科(和洋草花各種)果實科(各種)割烹科(和洋各種)細工物科(綿細工、瓶細工、接物細工、裁縫細工各種)手藝用に圖画科(各種)手藝教授法(各種)其他課外講義(數種)

入會申込所

東京日本橋角
電話本四一四番
振替東京二三八番

大倉書店

壹ヶ年修了

毎月一回發行

進呈
入會規定內容見本

御報次第早速品物持参御覧に入れ申すべく候

本場はまちりめん

近江國長濱名産

濱縮緬反物　小切れ　兵兒帯

うづら縮緬　濱　絹　かざり織

眞　綿　濱　蚊　帳　其他いろ〱

右は直接織元より取寄せ販賣致候に付

品質よろしく　價格やすく

本場に於て御求め被遊候ごすこしもかわり御座なく候

東京市牛込區新小川町二丁目十一番地中の橋通り

ちりめん屋　山田常愛

郵便振替貯金　東京一四六七五番

染もの御取次ぎ致候

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

四月一日より

新製品陳列會開催

○今様源氏振模様圖案陳列

○三都舞振人形陳列

○活動玩具各種陳列

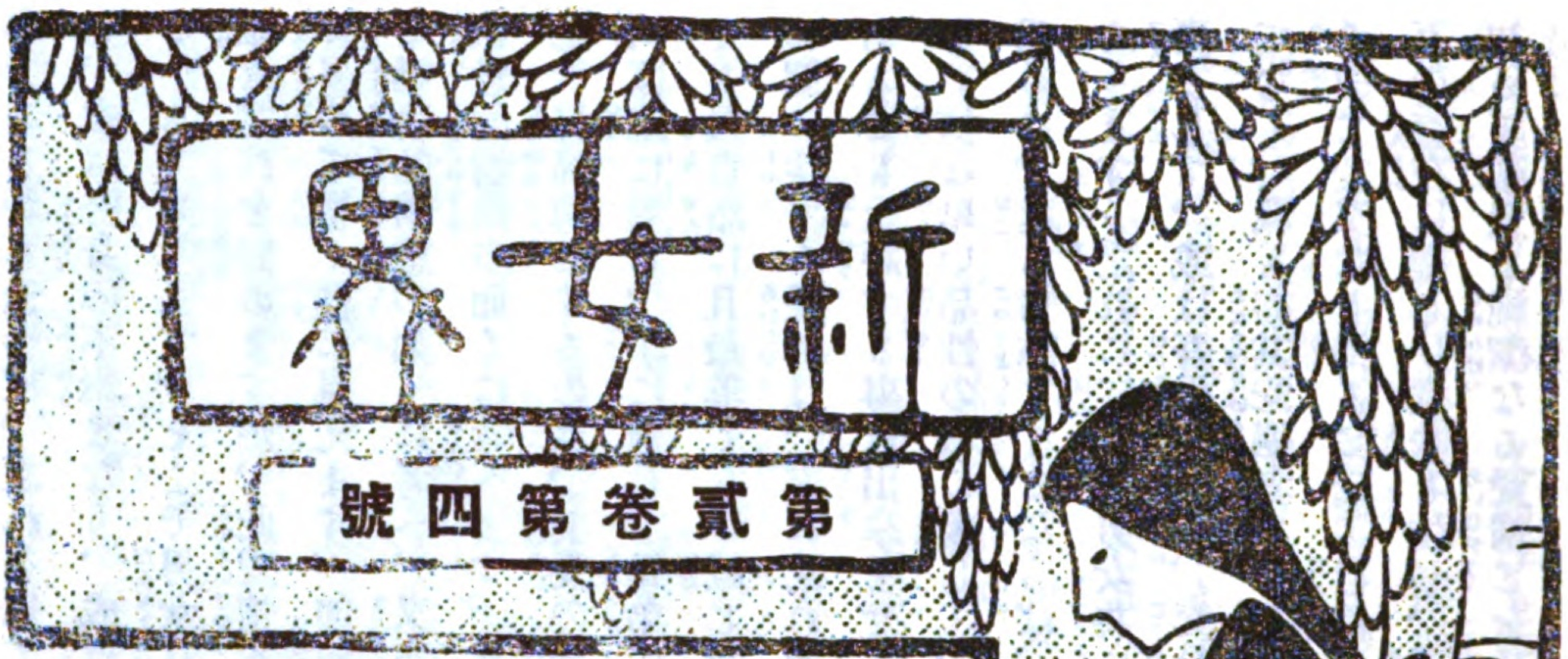
寄せ切見切反物大賣出し

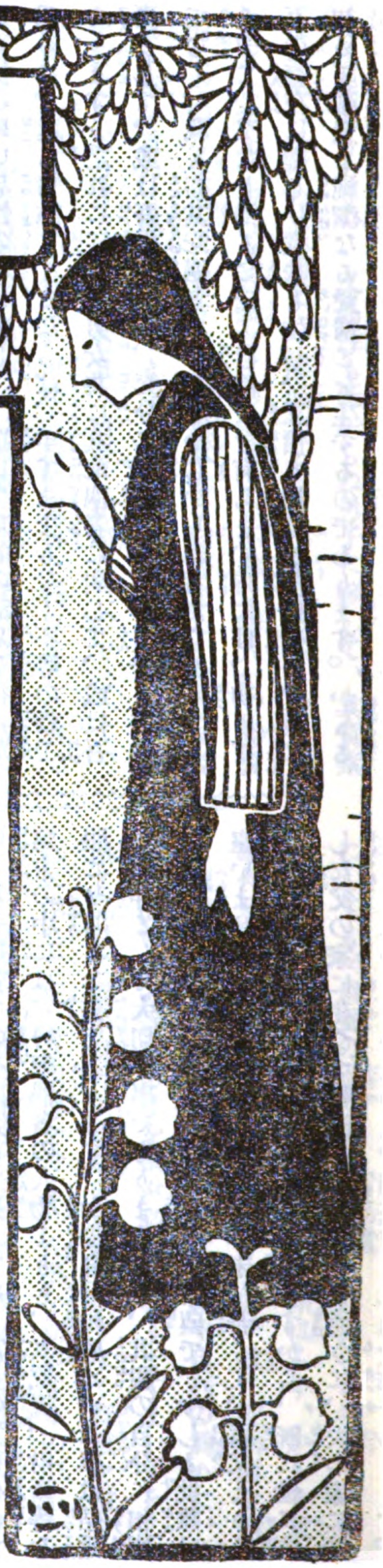
四月十日より

五月幟武者人形陳列

東京日本橋

白木屋呉服店





結婚の眞義

安井哲

學年試驗は旣に終つて、全國幾多の高等女學校から、多數の卒業生を出だしたのみでなく、各種の高等專門學校からも亦有望な青年婦人を社會に出だしたのは、誠に目出度い事であります、そこで是等の年若き婦人中には、更に進んで再び他の高尚な教育を受けらるゝ方もありませうが、其多數は早晩新家庭を作らるゝ準備として、家事の實習に取懸らるゝので御座いませう、其故に近き未來に於て諸孃の頭を惱まされんとする結婚といふ問題に就いて、眞面目に考へたいと思ひます。

結婚の眞義は人々に依りて幾分か解釋も違ひ、又其方法も東西同一では御座いませんが、併何處の國でも皆一樣に、之れを以て人生の一大事と考へて居ます。何故一大

事であるかと云へば、之れを以て未來多き男女の生涯を支配し、或は終身の不幸となり、或は幸福となる一大關係を生ずるからであります。そこで男女互の愛情を結婚の要素として誰も之れを認めますが、此愛情といふ言葉は、人々の耳に種々異つて響く樣に見えます。卽或人は之れを以て直に劣等なる動物的情慾の如くに考へ、又或人は之れを以て最神聖なる宗敎的情操の如くに考へます。そこでかく愛情をして下等にし、又高尙にするのは、其愛の對象如何に依ると思はれます例ば親に對し、子に對し、兄弟に對する愛情の如きは、誰にでも最自然に且最美くしい感じを與へますけれども、男女互に間の生ずる愛情は、直に之れを高尙であるとも、又下等であるとも批評する事は出來ません。卽若人間として取る價もない樣な卑い品性の者に對して、單に生理的の滿足を得んが爲めに、起る情慾とするならば、申すまでもなく不等の情であります。之れに反して男女共に其配偶者に對して、或は吾妻として、或は吾夫として、充分に價値があると信ずるのみでなく、我も亦其配偶者として耻かしからぬ者たらんとする希望と、又なり得ると云ふ自信とを有ちます時には、初めて吾の存在に樂しい意味も生じ、又價も加はる樣に覺ね、玆に初めて誠意と純潔なる愛情とを生ずるのであります。かゝる心情に依つて結合した男女は、最理想的な且最美くしい生活

を續ける事が出來ませう。極端に申すならば、結婚より生ずる眞の幸福は是だけあれば殆充分であるといつても差支なき程であつて、貞女は二夫に見ねずと申した昔の敎も、亡夫に對する愛情も誠意もなくて、單に聖訓として機械的に之れを守るのであれば、何の賞する所もありますまい。

然るに近來吾國靑年男女の結婚狀態を見ますと、かゝる人生の一大事を餘り重大視せず、恰も下女下男を探す樣に、容易く結婚して又容易く離別する傾があります。勿論之れは其男女のみを責める事は出來ませんで、之れに同意した兩親も亦其責任を分たねばならぬと考へます。そこでかゝる不幸を來たす原因は結婚の目的を配偶者自身に置かずして、何物かの附屬物に向けるからであります。今男子の方は暫く云はずに、女子に就てのみ研究して見ますと、富貴の家に生れた令孃方の中には、勢配偶者の人物よりも、其位置、財產等を主眼とせらるゝ樣であります。勿論身分相應といふ事は結婚の一條件として大切な事でありますから、其親の自分に相應した家に嫁がれんとするのは、當然の希望で、少しも批難は御座いません。併ながら配偶者は年未だ若くて、吾父よりも多くの未來と發展の余地とを有して居ますから、旣に世に成功した父の家に在つて贅澤な暮をなした通りに、夫の家に於て生活をしやうといふのは、到底望まれぬ次第であります。世

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

には學識もあり、又品性も低からぬ男子に嫁して、其質素な家風に合はぬが爲めに、離婚せらるゝ不幸な婦人も少くはありません。或は又資産などの余りない不幸な婦人が、物質的に幸福な生活をしやうとして無意味な結婚をし、却つて益其不幸を重ぬる場合があります。是等は皆根本的結婚の眞意を誤つて居る者で、配偶者其人自身に結婚したのでなくて、結婚を方便として、他人の財産名譽位置等を得んとした者であります。かく自利的の精神には誠意の宿る筈はなく、從つて純潔な愛の湧ぎ出づる場處がないのであります。此の如き人々は配偶者が貧に陷れば直に之れを棄て、病氣に罹れば之れを去るといふ樣な冷淡な行爲を敢てする者であります。

理想的の結婚者は單に其配偶者を愛するのみでなく、善良なる感化を互に受け取るといふ感じがある筈であります。かくて其愛は互の希望となり、慰籍となり、平和となり、力となり又助となつて、此地上に於て眞に己れを識る者は、吾配偶者の外には誰もないと云ふ位の程度に進んで後、初めて一心同體となる事が出來、互に貞操を守る樣になるのであります。勿論諸孃は年未だ若く、兩親監督の下に在つて、自由に靑年男子に接する機會があられませんから、かゝる理想的の結婚は到底出來得べからざる事であるといはれませう。それはそうかも知れません。併假令兩親が此問題を解決せらるゝにしても、最愛の娘の爲めに不幸なれかしと希望する親はない筈でありますから、其娘の諾否に係はらず、かゝる重大な事件を決定せらるゝ事はありますまい。故に配偶者を選擇する標準が自身に明であるならば、財産や自利の爲めに、故さらに品性の劣等な男子を撰ぶ必要はありますまい。そこで健康と品性と職業身分財產等の條件に誤りなく輕重を附け、之れに準じて正しき撰擇をせられん事を切望するのであります

更に諸孃が自身を未來の配偶者の爲めに準備せられんには單に料理裁縫等の直接家事整理に必要な事柄を學ばるゝのみでなく、能く精神的の修養をも力めて、最親切な暖い同情に富んだ者となられん事を希望致します。料理や裁縫が熟練を積まねばならぬ如く、美くしい心情も多年養成される事が必要で、一時に決して作り得らるゝ者ではありません。從來全く他人であつた女子が、突然他の家族中に加はる時には、吾國の如き家族制度の國では、家族互の關係に種々の變化が起る者で、即之れが爲めに、親子の愛情に影響を來たし、又は兄弟の關係上に變化を受くる樣になるのは、實に止を得ぬ次第であります。其故に其妻たる人は余程親切な人でありませんと、親子兄弟姉妹の間に種々面白からぬ感情の衝突が起る樣になりませう。歐米の如く夫婦は別居して、互の兩親と全く生活上の關係を絕ち、唯互に相助け相愛して樂しい生

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

活をなすのと違ひ、吾國の若い妻は種々の面倒な關係中に入り込んで、時には悲しい經驗もし、苦しい思ひをする事もありませう。殊に其清き愛情を獨り夫に捧ぐるのみでなく、其家族の多くに分たねばなりませんから、歐米の婦人以上の修養を積まねばなりません。幸にして吾國婦人は概して他人の爲めに、其身の幸福を犧牲にする遺傳性を有つており、且又尊長には從順に事へる習慣を得て居りますから、かゝる複雜な家庭に入つても、比較的圓滿な調和的生活をなし易いのであります。

要するに將に諸孃の一身上の問題たらんとする結婚は、諸孃將來の幸不幸を生み出す重大な事件でありますから、精神的にも實際的にも能く人の妻として、又一家の主婦として、合格する樣に充分の修養と熟練とを積まるゝ事が必要であります。特に結婚より來る幸福は、配偶者に對する至誠の愛と絕對的信用とに大なる關係がありますから、能く其身を愼み苟りにも他人より品行上彼是批難を受けて、人生一度の大禮を初めから不吉にし、又は之れがために、互の信用を妨げて、一生精神の調和的結合が出來ぬ樣な悲慘な境遇を作り出されぬ樣に、充分思慮あり注意ある生活をせられん事を希望するのであります。

端嚴なる姿勢

醫學博士　田代義德

姿勢は單に美の上から言ふばかりでなく孔子も容儀を整へることに就ては常に注意を怠られなかつたことは論語を御覧になつても分ります、惰弱にして捨てゝ置けば姿勢は段々醜くなります、單に醜いと云ふだけならば當人の損に止りますが、時に或は病を惹起し、前に言ふ脊柱側灣などゝ云ふ病氣になります、一度此病に罹れば醫師が治療に苦心してもなか〳〵癒りませぬ、之を豫防するのは常に姿勢に注意するより外ないのであります、倘姿勢は單に外形に現はれて、之に對する人に美醜正惰を感せしむるのみならず自分の精神的に及ぼす力も亦尠くあませぬので、苟くも姿勢が亂れて居りますと自分も怠り易く人も狎れ易いから戲談の一つも云つて近づき、遂に深き誘惑の淵にも陷るやうな事になります、容姿が端嚴でありますと、一言の戲談を云ふにも人が遠慮を致します、其外當人に取つて好い姿勢は自分の心持を淸らかに致します、例へばむづかしい書物を讀むとか、又自分の心持が特に正しい時には、如何にも姿勢が正しくなり、それに反して心に弛みの生じた場合には、いつか姿勢も崩れて來ます、作法の書を見ますと、凡そ禮の要は容體を正しうするに在り云々とあつて、確と坐つて手を膝の上に置くと自然心地まで改つて來るもので大に注意すべきことであります（時事）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

古代獨逸人の間に行はれし一夫一婦の美風

村田勤

一

去年の春、開教五十年祝會が神田の基督教青年會館に催ふされたとき、予も一夕演説會に出ましたが、當夜は滿堂立針の余地なきほどの盛會で、おまけに時刻を遲くれた爲立つて居る事丈は漸く出來たが、辨士の顏を見る事は一切出來なかつた、聲はたしかに聞き覺えある聲で、直ちに新渡戸博士の演説中である事を知つた。博士がだん〳〵說き進まれ、談佳境に入りし頃、一夫一婦の主義とキリスト教の事に論及された事を、同夜其席に居られた讀者の或方々は御記臆であらうと存じます。其要旨は西洋に行はるゝ一夫一婦の主義習慣を以て、全くキリスト教の始めて唱へ出した事のやうに思ふのは誤りである。此良俗美風の卒先者は今の獨逸人の祖先なる古代ゲルマン人であつた事を忘れてはならぬといふ點に歸着する。此點は予も頗る博士と同感同想である。良き折あらばゲルマン人種の間に行はれて居つた、一夫一婦の美風また彼等の社會に於ける女子の地位に就て世間に紹介したいと思ふて居たのであるから、新女界記者の御依賴ありしを幸ひ、その事を申述べて見たいと思ふ。

扨此古代ゲルマニアの制度風習につきましては、本年宮中の御講書始めの時、穗積八束博士が天皇陛下の御前に出でゝ講話せられました問題であります。其事柄を知らんとするに當り、殆ど唯一根本的の材料となるものは、タキッスといふ羅馬の歷史家の記錄であります。此人は西曆紀元後五十四年頃に生れて百二十年頃死んだ人でありますが、四十五歲の頃から五年ばかり羅馬の官吏として獨逸地方に駐在して居つた時、實地見聞した事や、又何か先人の記錄に據つて記るしたものゝやうに思はれます。左の引用文の中に予とあるは卽ち今から千八百年前に書いたタキッス其人の言葉である事を御

記憶願ひます。但し括孤は予の挿入した注である。

『予の考ではゲルマン諸部落の人民は他の國民と雜婚しないで其純粹固有の性質を保つて居たやうに思ふ。それであるから彼等には全く他の人民と違つた所がある。ゲルマン人は人口多くその住んで居る土地も亦廣いのに拘はらず、種族仲間の體格は全く同一である、目は碧色にして眼光鋭く、頭髪はや、赤味を帶びて居る。その大きい體は急劇の力仕事（狩獵とか戰爭とかいふやうな仕事）を爲すに適して居るが、久しく同一の勞役に服するには堪へない（農工業のやうな事）。寒い國に育つた爲でもあらうか、彼等は寒氣と飢餓を忍ぶ事には熟練して居るが、暖氣と渇とを辛抱する力は極めて弱い』。

ゲルマン人の服裝は眞に單純なもので大抵一枚ぎりで、餘程富貴の人でなければ下衣を用ゐない。そのやうに薄着であるから寒い頃は終日爐のほとりか又は焚火の側で暮すのである。婦人の服裝も男子のと似て居るが、紫の縞模樣のあるリネン製の肌着を身に纏ふて居る丈が男子に異つて居る。併しその肌着も身體の上部を殘らず覆ふのではなく、兩腕と胸の上部は露はして居るのである。『去りながら彼等の結婚に關する法規は嚴密なもので、ゲルマン人の風俗の中でも是れほど稱讃すべき點は他にないのである。野蠻人民の中でローマ人ギリシャ人は著しく文明に進んで居たが一夫一婦の風習に至つては確かにゲルマン人に劣て居る。（ヘブライ人も亦同樣であつた）各人一妻を以て滿足し居つた者は殆どゲルマン人丈である。但し少數上流の人々に限て重婚の許される場合がある夫れは情慾を肆にするといふよりは寧ろ其地位の高い爲に許して置くと言つたやうな譯である』。

二

『結納は妻が夫に持つて行くのでなく、夫から妻に贈るのである。兩親や親戚はその儀式に列り、夫から贈つた贈品を吟味して之を受納するのであるが、扨其贈物といふは女子に適する贅澤品でなく、又妙齢の新婦が身を飾りたがるやうなものでもない。卽ち牡牛、馬、轡、盾、鎗、劍などである。是等の贈物は卽ち男子の方から意中の婦人を妻とし一生つれそひたいといふ意志を顯はすものである。妻は嫁入の時土産として武器をその夫に呈する。武器の贈答は夫妻の緣を結ぶ最も堅固な表章と信ぜられて居た。結婚式の初めに妻たるものは其夫と共に働き又夫の危難には自ら進んで與る事を誓ふのである。且平和にも戰爭にも夫を扶けて彼と苦樂を倶にする事を誓ふのである。（夫から贈る所の）牡牛の軛や飾り立てた馬や武器などは卽ち此邊の意味を寓したものである。妻たるものは此精神で生活し又時と場合に由つたら、同じ精神でその生命を捨てんければならぬ。彼女が受けたものは少しも汚

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

さずに之を其子等に傳へ、子たるものはその孫に、孫は曾孫に傳へ、子々孫々に至るもので婦德を傷けず家名を汚さぬやうに心掛けねばならぬ』。

『此の如くゲルマン人は堅く其德操を守つて生活して居る。種々なる誘惑によつて腐敗に陷る事は極めて稀れである。男女共に(穴隙を切るとか人目を忍びて袖ひき合ふ)などいふ秘密交際法を知らない。それで人口甚だ多數なるに拘はらず、姦通は滅多になかつた。若しあつた場合には、その刑罰は早速その被害者たる夫によつて施行せられるのである。其夫は親戚の面前で姦婦の頭髮を切り去り、裸體にして家より逐ひ出し、全村を引廻はして鞭撻を加へるのである。(ゲルマン人は集合生活を好まなかつたから、村落はあつたが市はなかつた。家を建てるにも密接して建てず、どれほどか間を隔てゝ建てたものである)。苟も貞操を破つた婦女に對しては毫も容赦をしない。いかに容姿が美はしからうと、年が若からうとも、財產が澤山あらうとも、罪を犯した婦人は二度と再び夫を得る事は出來ない。何故といふに、ゲルマン人の中では、誰一人罪惡を笑ひ事にして濟ますものはない。又人を惡事に陷れたり或は自ら惡い事に誘はれたりする事を、ありふれた世間の習ひだなどと言ふ人がないからである。淸い處女の外は結婚する事は出來ない、結婚生活の希望と渇仰とは一生一度丈しか充たさるゝ事の出來ないといふ部落はダン〳〵美くなつて行くのである。婦人が一つの體一つの生命しか持たないやうに、夫も一人しか持てない。一旦其生を夫に任かせたからは夫れ以上何の考もなければ又何等の欲望もない。婦人の愛情の向ふ所はその夫であつて、結婚の狀態でない。小供の數を制限したり後から出來た子供を殺したりする事は罪惡と認められた。ゲルマン人に取りては其善美なる習慣は非常な力のあつたもので、他の邦に行はれて居る立派な法律に勝さる効力があつたのである』。

三

以上述べたやうに古代獨逸人の家庭が淸く、男女間の關係が正しく、夫婦の道が最も高尙なる道德の標準にかなつて居つた事は實に驚くべき事實である。一夫一婦の美風が行はれて居つた結果として親子の關係も亦美はしく且溫かであつた子供の敎育は母自ら其任に當り、決して乳母や婢僕にさせなかつた。幼少の時分には主人の子供も奴隷の子供も區別せず同じやうに遊ばせておいた。衣服も極めて薄着で暖い頃は全くの裸である。古代ドイツ人の剛强なる體格は此の如き立派な夫婦の間に生れ、又上述の如き有樣で成人したのである。子なき事はその家の耻辱で、老いて兄弟や親類の多いのはその人の名譽と崇められた。又彼等は大に早婚を戒め、親達に

も女の縁談をいそぐ風がなかつた。男子は早くとも二十歳後でなければ妻を持たなかつた。女子の中には男子に劣らぬ體格體力を備へたもの多く、背も男子と同樣に高いものが少くなかつた。古代の獨逸人の中には巴板額の例などは珍らしくない。ゲルマンの婦人は殘らず巴板額のやうな女丈夫であつたと言つて過言でない。戰爭の時は一家一族打つどうて戰ふ習ひであつたが、婦人や子供等がその近傍にあつて大聲に呼はりつゝ夫や親兄弟に元氣づけたのである。男子等は彼等の目前で武勇を顯はして奮鬪する事を非常の榮譽とした。若し傷を負ふて還へる時は、先づその傷檢分をするのが母や妻の役目で、檢分がすんでから繃帶をしたり飮食を與へたりするのである。時には一團の勇士等が負けて戰場から敗走して來たところを、婦人等が途中に喰ひ止めて彼等を勵まし、懇願熱禱の末に再び敵に立迎はしめて最後の勝利を占めた事もあつた。

家庭紊亂、重婚蓄妾の風盛んに行はれ、姦淫は男女の間に殆ど等差なく漫延し、女子は子を設け又之を育つるも五月蠅く思ひて墮胎子殺しを爲すも法律は之を禁ずるに由なく、人口減じ、體力衰へ、質素剛健の氣象頽敗したる西羅馬帝國を滅ぼして、歐羅巴及び阿米利加の或部分に移住し、爾來世界列强の基礎を据えた獨逸人の先祖は、上文に述べたやうな一夫一婦の美風を持つて居つたのである。婚前に於ける男女間の貞潔や、中世の西洋武士道の一要素であつた女子敬遇の德が、その淵源は矢張ゲルマン人の風俗にあるやうに思ふ。舊約聖書にあらはれて居るイスラエル民族、神の選民と自稱して居た者も此點に於ては確かにゲルマン人の下風に立たねばならぬ。九世紀十世紀若くは十四五世紀頃のキリスト教の僧侶等も亦古代獨逸人に對して頭が上らぬやうに思ふ。平安朝の盛時には朱雀大路の眞ん中で風俗壞亂を演じたり、一夜に二夫に見ゐた婦人のあつたといふ我大和民族も昔しのゲルマン人に對しては誠におはづかしい次第でなからうか。

四

雀百まで躍忘れぬといふが、獨逸人もその例に洩れない。昔から酒好き唱歌音樂好きであつた彼等は。今日でもビールを茶のやうに飮み、音樂は世界で名高い。昔し野蠻時代にやつて居た決鬪は今以て其痕をたゝぬ。昔は中々賭博好きで自分の身體までかけたほどの人民だが、今はどうであるか其邊は僕も取調べた事がない。終りに一夫一婦の美風はどうだか尋ねて見たいが、此事は一寸斷言し惡い。成ほどベルリンやその他の大都會には魔窟があり百鬼夜行の有樣だと聞くが、自らその濁流に浸て來た人の誇張談にはウカヽヽと信を置き難い。特に大都會は諸國の人民が集まつて來て旅の耻のかき棄をす

る處であるから、ドイツ人丈の惡事とも言ひ惡い。ドイツの田舍にはたしかに昔の美風良俗が今猶殘つて居るそうである大體からいへば男女間の貞潔はラテン人種よりチユートニック人種に能く行はれて居る。假りにスウキツルランドやスカンデナビヤや大英國や北米合衆國の東部がドイツより幾分此點に進んで居るとするも此等の諸民族は皆ゲルマン人の血を承けたものであるから、自分は矢張一夫一婦の良制度がドイツ人の子孫の間に一番能く行はれて居ると斷言する事を憚らない。今や學問や藝術や商工業や將た政治や戰爭の事にかけても世界の列强の中に介立して偉大なる國民たらん事を期して居る我等日本人は大に古代ドイツ人から學ばねばならぬ。否彼等の子孫たる純粹善良なるドイツ人及びアングロ、サキソン人に倣はねばならぬ。梅毒患者は强兵たる事が出來ない娼婦を以て我國の名産のやうに思はれて居る間は、家庭の神聖を誇る事が出來ない。蓄妾その他のふしだらが各家とか紳士とかいふものゝ社會に於ける信用體面と無關係である限りは、君子國といふ言葉は全く僞善である。キリスト敎が日本に與へ、又將に廣く與へんとしつゝある貴き贈物の一つは、家庭に對し夫婦に對し、男女の關係に對する高潔なる理想と敎訓とであらうと信する。

月と戀愛　一

三澤糾

科學上から見れば月はあらゆる遊星の中に於て尤も小さいものであるが、人間の眼には夜の空に輝く諸星の中で尤も大に尤も明なものと映ずるのである。之れを太陽に比ぶれば、其光力は四十萬分の一にしか當らないが、他の諸星に比べて見れば、北半球の空に尤も輝けるヴエーガといふ星に比べても其六萬倍の光を地球の上に投げて居るといふのである。されば希臘の古詩人が

「御空に久遠の頭をあげて、八面玲瓏の光し射れば
　無邊の光耀こゝに湧き
千條の光線與さ擴ぐるや、黑暗の大虛輝き出で、
　黃金の冠をぞ圍繞せる」

と歌つたのも誇張ではない。且つ夫れ、今まで燦爛と空にきらめいて居た星も、

「月圓滿の相を現じ
　銀光普照地に漲らせば
　　耻ぢてや隱す輝くおもわ」

といふ有様であるからして、我が地球の衞星が永劫の昔より人類祖先の注意を惹いて、その親愛、畏怖、崇拜の一大對象

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

となつたのは、少しも怪むに足らぬ。

それが夜の靜寂と安息の時に現はれるのと、その光が柔かであるとに由つて、月が人間の美的生活の中に占めて居る地位は、恐らく赫々として人目を射るところの太陽の上に出て居るのであらう。北米土人の一族チエロキーインデイヤンの間に一の物語がある。

「さてもその昔、お日様は地上の人民どもを憎ませられた。それは何故かさいふに、人間がお日様を見上げるときは、誰れも皆しがんだ顔をして居るさいふ譯なのだ。そこで或日のことお日様が其お兄弟のお月様に仰せられるには「何さわしの孫どもはまこと無器用に生れついたものぢやあるまいか、どれもこれも、いがんだしがめツ面だらけだ」。然し御月様がいはれるには、「いや私は何れも好きで御座る。一人として皆美貌ならぬは御座りませぬ」。何故お月様が斯樣な返答をなされたかさいふに、お月様の光は柔和だから、人間がそれを御空に仰いだときに、何時も樂しさうにに こ〳〵顔をして居るからなのである」。

一體小供と無學文盲者との頭腦は、餘程野蠻人に似通つたところが多いのであるが、或る小さい娘の子に、お日様とお月様とどちらが貴いかと尋ねると、即座の返答が面白い。

『そりやあ分つてるぢやありませんか、お日様は光のいらない晝中に出ていらつしやるし、お月様は眞暗の夜になつて出て下さるんですもの』。

又た或本の中に斯ういふことが書いてあつた。或るアイルランド人（英米に於てアイルランド人といふ言葉は、無學文盲で、滑稽的の所作をしたり、言葉を吐いたりするものとして引合に出されるのであるが）お日様は臆病者だといふ。何故かと問へば、お月様は夜通し一緒に居て呉れるが、お日様は少し暗くなりかけると直ぐ何處かへ行つてしまう、だのにお月様は夜どほしわつしらと一緒にゐてくれるといふわけなのだ。

二

光明を愛し喜び暗黒を恐れ惜むといふは、人類の歴史に於ても個人の發達に於ても、最も早く表はれる心理的反應の一である。何でもきら〳〵と光る物體、嬰兒の注意を惹く第一の刺戟は之であつて、之が恐らく又子供に顯はれる美の初めであらふ。私が米國の小學兒童三百七十八人を質問して何故に月を愛するかと調べたのに、幼少なるものゝ答は大抵千篇一律、月が明く光るからといふ理に基いてゐる。蓋し彼等の心に於ては美しいといふ事と、光るといふ事とは區別されてゐないらしい。私より前に子供の月に對する反應を研究したスローターといふ人は月があるとなしとで夕方の子供の氣分に大なる差異があると云つてをる。卽ち月は彼等をして非常に愉快ならしむるのである。で黄昏人を壓する樣な氣分の時に、月が巷を照らし、野山を表はし、木々に黄金着せて輝き出づるや、子供等は或は躍ねとび、或は叫び走り或は聲高

に笑ひさゞめき、何時もの睡たさも何處へやら、常になく氣性よく、時として我を忘れて獨許りとなるといふのである。

右は小さい子供の事であるが妙齡の青年男女にありても、月の光は其生き心地を増さしむるもので、月は屢々其喜悦と希望と勇氣と慰籍との源となつてをる、今試に私の質問箋に答へた妙齡女子の告白から二三の例を出して見よう。

『何時も月夜には他の晩よりか愉快に幸福に感じます。心地爽やかに感じない時にも、月の光照る處へ出るや否や不愉快の念は消え去つて喜ばしくなります。』

『月夜には人生の生き甲斐ある事を感じます。私は何となく幸福で喜ばしくて、誰にでも面と向つて云ふ事が出來ます。今夜われ生きぬと。翌日何事か起るやは問ふ處ではありません。現前の生を樂しむといふ氣になります。深き喜悦と心の昂り、之が私の心に感ずる處であります。』

『月は私を幸福に愉快に感ぜしめます。持てる重荷は輕くなり、光明の未來が輝いて來た樣に思はれ、凡ての悲みと嘆きとは消え失せて、喜悦が之に代ります、かくて勇氣と希望とを回復するのであります。』

斯の如き月前の快感、青年の生命の底から湧いて來る樣にみえる喜悦幸福の思ひは、單に闇黑の不快を免かれ、光線の適宜なる刺戟に曝さるゝために起るのであらふか。但しは其奧には深い〳〵永劫の秘密が潛んでをるであらふか。蓋し小兒の心裡に映ずる月は「面白い」とか「笑つてる」とか「可笑しな顏をしてをる」とか「愉快な親爺」だとか云ふ風である。妙齡の女子に對しては此天上の佳人は同情ある友である。戀の喜悦をも其痛みをも悲みをも知つてゐて、折節は哀しそうな、心寂しそうな姿で表はれるのである。實にも月は天上天下何物にも勝つて人生の琴線に、大小高低のあらゆる音階を奏でたものであるが、其最も妙艶豐富なるメロデーを奏でたのは、女性の柔しき情

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

緒の上に於てゞある。子供も月を愛する、男子も月を喜ぶ、然し最も深い愛着は佳人の胸に惹き起さるゝ。月は特に乙女の星である。

日は果てゝかせぎの終りし時
　乙女皆のあがむる姿よ
靜かなる莊嚴の極みに
　夜を晝となしてこそ上れ
昇るや地球の暗き果より
　銀の月こそのぼれ。
若き心のさきめくなべに
　湧きづや千々の恐と喜び
果は幾度か只すゝり泣く
　不思議や女の恐れと喜び
我等は知らず何處より
　來るや知らず何時の間にかも、
之ぞ我等の生命なる
　めぐしや然れば月の出てゝ
月よ月よ生命の月に
　吾等乙女は月をめでん
輝く光をもたらし出でゝ
　銀と照る圓滿の月。

三

メキシコでは月は婦人に對する特別の神であつた。ペルーの神は女の姿になつておつて、婦人が萬事其奉仕に當つておつた。ギリシヤ人のアルテミスは特に妙齡の女子に對する保護者で羅馬人のジユノーも亦婦人の神であつた。古代ユダヤ人の間に於ては男子は黄金の犢の前に跪いた頃、女子は新月を拜んだ。後代に至つても新月の祭は主として婦人の仕事であつた。アメリカインド人のある種族中では月は死んだ婦人の魂を接受すると云つておる。

歐州及亞米利加一般何處にでも月は特別の恩寵を戀の上に垂れるといふ信仰が行はれておる。即ち一種の呪文を唱へれば、未來の夫を知る事が出來るといふのである。英國で最も普通に行はれておるのは次の樣なものである。

　お月さん女のお友達
　　おめぐみ垂れてよ私にも
　みせて頂戴今夜の夢に
　　願かなふかわたしのさだめ。

ノルウエーで行はれておる風習は、之より少しく入込んでおる、それはかう云ふのである。新年になつてから一番初めに新月を見た時に、それを仰いて次の歌を唱へる。

　誰れのお膳をすゑましよか
　誰れのお床をのべましよか
　誰のおん名を名のりませう
　誰にわたしはよめりませう

左樣云うて自分の嫁入り度い人を念じて歩いてゆく、そして一番最初に道で出會つた人に何か問をかける。其答が肯定的であつたら、それは自分の選んだ人に嫁入が出來るといふ徵で、若し返答が否定的であれば、願は叶はぬといふ徵である

晝中の騷擾紛雜がやんで、黄昏時の物靜かなる而も疲れた樣な心地、微かにさゝやく自然の物悲しい而も心行く味が、人間界爭鬪の騷に憊り、原人アダムが吾々の魂の内にめされ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

て、其失はれたるパラダイスに憧憬るゝ時、此時恰も天上の美人が其玉殿を出てゝやさしき美妙の月夜の曲と一つに鳴り響く、一切の情緒や理想や想像やを吾々に惠むのである。

「かの皓々たる清純の影
　深く輝き入る戀人の懐
詩人古今饒舌を弄し言ふ
　和光柔かに徹ひ照す處
尤も甘美し佳人才子の歩み
　情緒こまやかに盃す喃々のさゝやき。」

とはウイリアム、ブライアントの詩であるが、トマス、モアーの戀にとけたる心には、地球近く笑ひ來る彼の柔和なる玉光が、蒼穹の一切の輝けるものよりも、更に親しみ深く感せられたのであらふ。そこで彼れ歌つて曰く、

「輝ける御空に女王のなれに祈らむ
　消すな今宵戀のさもしびな
此欄干にアンシ出て來て
　なれが光の影にいだきつ
長き契のあつき接吻
　われに與へん其時迄は。
なつかしき妹が歩を導け此方へ
　めぐしの月よ羞む樣の
新月影を敝はんまへに
　戀し光を此の欄干に
さぼさばゆきれ二人の外の
　大千世界は闇につゝみて。」

四

然し月がやさしき感情や心持を喚起したり、強めたり又は想ひ出させたりするのは、獨り詩人の胸に於ける許りではない。私の質問箋に答へた百〇九人の中で、皆其心が沈默したる而も太古以來變らざる自然の呼聲に應ずる事、少しも吾々の遠き祖先と變らぬ事を證明したのである。彼等の告白によれば、月夜の晩には常よりも心が生々となつて人なつかしくなり、若しくは一切の事物一切の人に對して、やさしくなり若くは常よりも情愛深い心持になつて、誰れかを可愛がつてみたいと云ふ樣な心持を起す。或は何となく涙つぽく情が弱くなる、或は深い愛を自然に對して感ずる。極親しい感が友達に對して起り、今夜は何でも打ち明けられる樣に思つて來る。或は寂しさに對して慰めを得、誰かが自分の近くにゐてくれる樣な感じを起す。或は自分の愛する人の事を思ふ。或は誰か氣の合ふ人と散歩をし乍ら話したいといふ考になる。など云ふのである。左に三四の例を原文の儘譯出してみよう

『私の愛情は月夜に於て其極に達し、友達の誰にでも否な自分の知らぬ者に對してでも、自分を犧牲にする事を厭はぬといふ心になります。此感情は充分表はす事も何と說明する事も出來ぬ心持であります』

『戀愛は私が最も神聖とする情操の一であるが、私が之に關していろ〳〵と思ひ廻らす事の好きなのは、獨り一室に閉ぢ籠つて、窓の邊に座しながら月を眺める時でありま す。私は度々家族の團欒からのがれ出てゝ、こつそり

と二階に行き他人の妨害なしに此樂しみに耽けつた事があります。』

『私は月夜の晩になると物悲しく寂しくなつて來て、何物とも知れず自分の手の屆かぬものに向つて憧憬るゝ心を起します。月夜の晩に若し獨でおれば寂しくなつて誰か自分が愛する人がほしいといふ氣になり、ちやんと一人の人を架空的に拵へてみ、そして此人が自分と一緒にゐたならば、どんなにか幸福であらうなど考へてみるのであります。若し男子の人と一緒におれば何だか夢のやうなぼんやりした心持になるが而し何となくうれしい。』

『月夜の晩には私の愛情は深く動いて來る、かやうな時私は其大なる愛情を誰にか注がねば措れぬと云ふ心持になる。此時若し可愛がつておる手飼の獸畜とか親友とかゞ側にゐないと、全く氣が欝しふさいで仕舞つて遣る瀬なくなる。若し斯樣なものがあれば私は其中で一番自分の好なものを誘つて美しい月影に物いはすさまよひたい。善惡の感じも月夜の晩には明かになるやうに思ひます。然し餘程意志の力を用ゐなければ、愛情の方が是非の念に打勝つて仕舞ふだらふと氣遣れる。私は何時も此の强い愛情を制するに餘程の努力を要したのであります。』

英國の業平朝臣とも稱す可きバイロンは此の間の心理的消息を知つておつたのであろふ。彼は歌つた

日は入りて黃色なる月こそ上れ
　曲事をせんさて惡魔月にあり
淸淨の乙女さ摂れ呼びしやたれ
　早かりし稱號なりしよ　さればみよ。
あやうしや沈默の夕其時
　全靈を開くにまかせて呼び返へす
力つゆ　さゞけは持ず　みづからを
　制しなん　術はた知らぬ　靜寂ぞ。
樹さ塔を　いよ〳〵高めて　一切を
　照したる　美にそふ柔和は　深けれど
その光　息吹さ胸に　投げいれば
　人ごゝろ　戀の亂れぞ　安からぬ。

之はまだ戀の對象を確と握らぬ心のもだねわづらひであるが、意中の人互に愛の手をとりかはして、月下に何とはなきむなしき物語をする境地は、ハイネに由つて言ひ表されておる。

いましが可憐の碧き眼に
　われを見るさまのいぢらしや
あゝ言ひあはず夢の心地に
　融けてたのしきわが心。
いましが可憐の碧き眼に
　見入りて千々にわが思ふ
深き思や大海原の
　よせこそ迫れ胞の巾。

シエキスピアーのマーチヤントオブヴエニスに於て、ロレンゾとジエシカとが戀に醉ひたる醉心地に、月光浩々たる處己れらのと似たる昔の戀語を繰り返し言ひ交はす條は、吾人の熟知するところである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

しかし乍ら戀の甘美さにも永遠の春はない。逢うて別れの悲しみ、待つて相見ぬもだね、酬はれぬ片思ひの絶望、飽かれし怨み、僞られし憎など、花咲く野路に、野分木枯の俄かに吹きすさばぬとはいへぬ。かゝる場合には、月は却つて悲みを增しむる種であつて、天上の彼れは幾多地上の人の涙を見幾多の人の怨みを聞いたかも知れない。その柔かな光は、悲しめる心には陰欝の姿に變じ、片破れ月のかげなどは特更そうであろう。此に於てか詩人は渠を呼んで「冥の陰欝の女王」といつたのである。

見よかしこに月はのぼり來
　いろは褪せて沈める面わ
さしも似たり憔顇の戀、
　月よいざ言へ今宵わがいも
むもふかむかし相抱きてし日を
　あはれ切めてか汝が泣く見ゆ。

これは月の面に悲哀の姿を認め乍らも、尙其の中に大なる慰籍を得て居るのであるが、シエキスピアーのアントニーアンドクレオパトラ中のエリサベスニ至つては、偏へに萬丈の怨みを月々向つて吐いて居る。

無益なり　なげきの手傳
　わが胸は　なげきに慣れす
諸泉みなは　わが眼に注ぎて
　世を浸せさか　あふろゝ涙
水の女神や　しめれる月ぞ
　栄かや　あはれわが星なれば。

五

私の手に入つた告白の中に一つ左の如きものがある。

『私は月前に於て、深かれ淺かれ、一切の感情を經驗した。喜悅、悲歎、歡樂、哀情、浩蕩たる心の昂り、及至は畏怖の念、感ずる處は折につけてさま〴〵であるが、其折々の感情みな月光の下に於て强めらるゝやうに思ひます。』

これが吾々銘々の經驗であるならば、慥に人類を一に見てそれに當てはめることの出來る經驗であらう。卽ち、月は人類の友であり、慰籍者であり、其の告白を訴ふる處であり、裁判官であり、保護者であり、神である。

科學上より見たる月は、地球を距る二十三萬九千哩の間隔を保ちつゝ、一秒間に三千三百五十呎の速度を以てその周圍を廻轉して居る、二千百六十哩の直經を持つた大きな圓球である。昔は其上に生物が住んで居たものだろうといふことであるが、今日では已に生氣のなくなつた、卽ち枯死した遊星に過ぎない。物質的に地球及その上に住む人類に及ぼす影響を言へば、太陽の引力と相待つて海潮の干滿を生せしむる原因たることの外、今日まで科學の影響し得て確なものはまづない。磁石力及び大氣の流に影響があるといふことを言つて居る學者もゐるがまだ充分明でないやうである。しかし、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

それが人心の上に及ぼす影響は、太陽の上に出づるとも決して之れに下らぬ。特に感情生活に於ては、天體の中に於て恐らく月が第一であろう。否自然の物象の中で其の右に出づるものはなかろう。

今や二十世紀の文明は人類を大都會の生活に驅り、人家稠密の間、天に月かげを仰ぎ見るの空地なく、地には電燈の光皎々として不夜城を現じて居るので、人は漸く此太古以來の友を失ひ、彼れは單に物質的に死せる天體となつたのみならず、將に人心の上にさへ死んで仕舞はふとしておる。歐米に於ては月の美、月の詩興を知らないものがだん／＼と多くなつてくるのである。最始時代以來月が人心に占むる地位のかくの如く高かつた爲めに其文學美術上に於ける地位も從て頗る大なるものである。日本に於ては月雪花と云つて詩の三大題目の中に列せられておる位であるが、若し文明の進歩が月の人心に對する影響を奪つて仕舞ふものならば、それは同時に文學の大部を殺し滅して仕舞ふものである。

戀は生命の根本事實の一であるから、月がなくなつても滅びはしまい、然し其戀が月の精神的死によつて低くなるといふ事、少くとも其詩美の一部を失ふといふ事は多少氣遣はれるではなからふか、彼の清純皎潔なる月光の下に於ける戀と近世都市の塵と騷に充ちた舞踊室との戀との間には、多少の

差別なしとする事が出來ようか。清き光と清き心と何等の交渉なしとする事が出來ようか。兎に角私は人類の生活を豐富ならしむる爲に、否貧疎となるのを防ぐ爲めに、月をして永く人心より死なざらしめたいと思ふ。此一點から考へても歐米の社會に擧つておる「都會に對して戰闘せよ、自然の懷に歸れ」といふ叫びは意味あり價値あるものであつて、吾が明治の社會、諸種の美しいものを破壞して之に代る醜いものを築くを以て進歩と誇つておる「新日本」に取つては、また一の警鐘を撞いておるものではあるまいか。そして若し月の精神的若しくは美的生命といふもの丶上に危機が迫つておるものとすれば、この生命の保護に對して最も大なる興味を感じ、最も勇敢なる戰士となる可きものは婦人諸君、特に妙齡の婦人を措いて外にないと信ずるのである。

生物進化の話

▲生物の變化に關する一二の考方

谷津直秀

吾ひ日月星晨や山岳河流などを望んで不可思議の念に打たれる事があるが、また目を轉じて地球上に於ける生物を観れば前者に劣らず不思議の念に打れるのである。數の多いの

も驚く程であるが、種類の多いのは猶一層驚愕を惹き起す事である。動物の種類は全體で五十萬、植物は其半分で二十五萬程ある。魚類は日本だけでも千四百、鳥は六百五十、獸は二百五十、鼠の類のみでも二十八種あるそうである。花の咲く植物と羊齒の類を合してまづ三千と云つて居る、實にかくの如く變化に富んでゐるのは不思議といふより外はない。

地球上に生物がどうして出來てきたかの問題は暫く措き、生物に如何して斯く變化があるか、一通りでなくとも百や二百位でも事足る筈なるべきに、何故斯く殆ど無數と云ふ程多くの變化があるか、此は中々の大問題で生物學者の專有物ではなからふ、人として是非考へなければならぬ問題である。

地球上の物が千狀萬態なるは二つの考方がある。一は造物主といふ者があつて極く古へに現今ある總ての生物を造つたとの考へである。是は聖書の初めにあるユダヤ國の口碑が大に責任がある、幸に日本では此考が擴つて居らない。或る時米國の年老たる婦人に此から次に私の述べんとする事を話して聞かせた所、其時は如何にも感心の體であつたが、翌日聞けば其晩解毒劑として創世記の初を讀んで寢に就いたといふ事であつた。信仰の單純なるは愛すべきであるが、然しユダヤ人の麗はしい信仰の歌を、數十世紀の後の吾人が字句其儘を正しと考へるのは苟も常識のあるものには不可能の事である。又創世記の記事を眞面目に攻撃する科學者は丸呑に信ずる人と常識の量に於ては同樣なるものである。

第二の考へ方は即ち進化である。之は始は極單純のものから長い年月を經て、變化に變化を重ねて、今日見るが如き千狀萬態のものとなつたと考ふるものである。之の考は極く古く起つたものでギリシャの考へ好きの哲學者も既に斯く思つて居つた。常識のある人々が自然に此考へに到着するのは當然の事である、此事は彼の有名なるダーキンの創見の如く思ふは大なる誤りである。

二十世紀の今日、諸君の前で進化したか進化しなかつたかの議論をするは殆んど無用の事と思ふから、簡單に述べて他の問題に移らふと思ふ。若し動物や植物の先祖が皆アルコールか何かに入れて保存してある博物館が有つたら、其所に行けば無論進化の迹を尋ねるのに困難はあるまい。然し不幸にして此の如きものもなく、又吾人の過去の歴史中又は目の前では餘程專門家でも進化の起つたと云ふ事を證明するには困難である。三十年程前にエヂプトから掘り出したるラメセス二世を見ても、又猫の木乃伊を見ても、現今のと相異がない然し幸ひ化石となつて古の生物が遺つておるので、進化は空想でなくつて事實であることがわかる。化石も或る人が燒けた圖書館の樣だと云つた通り、極少かの頁が上になり下にな

つて散在して殘留して居るのである。夫にも係らず化石學者の熱心なる研究で今日では中々よく知れて來た。特に馬の歷史の如きは殆んど完全に近く、二三萬年間に丈一尺程の先祖から現今の馬の如き立派なる動物が出來た迄の進化の道程が明白になつた。象や駱駝の先祖も同樣によく知れて來た。

▲如何にして斯の如き進化が起るか

以上の一つの事でも進化は疑ひもなく實際の事實であることがわかる。此以上の證明は玆に省いて直に本文の主眼とする問題に入らふ。即ち進化が如何にして起るやとの大問題である、簡單に答へれば予供が親と同じくなく異つてゐるのが進化の元である、然し之は事實を只言ひ換へたばかりで理を解いたのではない、けれども之れが極めて重大な意味を持つておるのである。

予供と親と異るといふ事に二つの場合がある。即ち第一は子供と親と少し變はる場合と、第二は全く別物が生れる場合である、即ち云ひ換へれば新しい性質を持つたものが出來る場合である。第二の場合で新しい種類に進化するのは云までない事であるが、第一の場合でも塵積んで山となる的に、數十代、數百代も重れば遂に先祖と別な物に進化すると考へられるのである、

▲炎天に生き殘るおたまぢやくしと
一年半て果實のなる栗

漸々變化するにも二樣の方法がある樣に考へられる、即ち一は種々の方向に變化するのと一方に向つて變化するのとである。先づ種々の方向に變化するものの方からお話しすると一體同じ親からの兄弟姉妹はよく互ひに似てゐるのに驚くと云ふのは、全く皆が同じでない證據でどつかの點にて異つて居るのである。此個體の差異は鳥でも鼠でも小さな蟲の中にもあるものであるけれども、吾々の目には慣れざる爲め同な樣に見へるので、蟲や鳥の仲間では其差が著明に分るに違又い丁度外國人には何の日本人でも同じ樣に見え易い。又毛唐人など赤鬚などと外國人を呼んでいた時代には、日本人の目には外國人の個人の特徴が見分が附かなかつたである。かく一對の親に色々の子供が出來、色々の子供に色々の孫が出來、色々の孫に色々の曾孫が出來ると云ふ風で、變化が色々の方向に行はれる。例へば圓き先祖が五十代の後に三角のものとなるのに、圓の子に四角五角六角に近きものが出來て、其五角に近いものの子に四角六角五角七角三角に近いものが出來、其三角に近いものゝ子孫が色々變化して三角のものとなる樣なものである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

然らば此場合でなぜ三角に近いものが生き延びて、他がなくなるかと云ふに、外界の狀態に適してゐるものが存在するので、所謂適者生存と呼ばるゝ現象である、例へばオタマジヤクシが數百匹居る水溜りが炎天に照らされ、其水が八十度になつたとすれば、其中其溫度に堪へるものは生き延び他は死んで仕舞ふ。必らずしも強いものが生き延びるのではない、強壯のものは家から走り出だして殺され、老人や病人は家に留つ居つて却つて生を全ふしたと云ふ話がある。かく自然と(自然にと云ふと誤りを生じ易い)擇ばれるのをダーウキンが自然淘汰と云つた。此事は自然界に常に行はれている事であるが、之で新しい形の出來て行くのを目の前では見るのが困難であるが、此と同樣な人爲淘汰と云ふのを見れば短い時でわかる。土佐の有名なるサヾナミと云ふ尾の長い鷄は僅に四五年の間に極長いのは二丈二尺もある尾の羽根を有するものと人工的になした。英國では五十年の間に普通の鷄を爭闘用のシヤモの如きものとした。カナリヤは元は綠色で黑斑のある鳥であつたが人工的に數百年の中に黃色のものとした。今でもカナリー郡島中のテネリツフと云ふ島に行て見るとカナリヤの先祖の綠色のものがおる。金魚も鮒から多分人工的に變化させたので現今は色々の形がある。豚も猪から出來たそうである。此人爲淘汰の例として最も善きは米國カリフオーニヤのサンタ、ローザに住む園藝家バーバンクの仕事である。此人は餘程目の鋭い人と見へ、普通の人には同樣に見へるものゝ中より、善良なるものを擇み出たすに妙を得て居る。或る時など一本の善きイチゴの爲めに六萬五千本も燒たそうである。此人の造り出したる不思議なるものゝ中で二三を云へば、先づ棘のないシヤボテンである之れは中に纎維もなく、牛にも食せられし、砂糖漬として美味なものとなつた。スモヽの堅い種子のないものも造つた、中心には軟い種子の中の部分だけあつて、堅い皮はない故に小刀で苦なしに切る事が出來る。又桃栗三年柿八年で、栗の實のなる迄には種子を蒔てから餘程年のかゝるのであるが、此人は三尺位の丈で一年半で實がなるのを造り出だしたそうである。餘りに不思議の植物を造り出たす故或る日のこと其村の牧師がバーバンクを特別に招待して、植物界に神の定めし秩序を亂すは以ての外の事だと大に訓戒を與へたそうだ。

かく人が身分の好むものを撰び出だし、理想に反するものを取り捨てると、代を重ねる每に理想に近いてくる。自然界でも自然の狀態に適したものだけ殘つて先祖と異つたものとなり適しないものは滅亡して仕舞ふのである。次には前記のと反して或る一定の方向に變化して來て新しき形のものと成る方法である。之は化石を研究して見るとよくわかる、例へ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ば角を持つてゐる動物の出來初めを見るに、最初は何の用もない低い皮の下の隆まりが出來る、其が千年萬年と經る間に立派な角となり、中には餘りに角が大くなり過で死に絶へたものもある。トカゲや蝶や介殼の班紋の細かい所まで一定の方向に向て進化して來たあとが見へる。

▲突然親と異つたものが生れる

急激に變化する場合即ち親と子と全く異る事も隨分多くある所謂「變生物」である。今から百二十年前に米國の或る所の羊の子に丈の極低い脚の曲つた全く別の種類の羊が出來て餘程長く續いてゐた。クジャクを多く養つて置くと、其中に肩の黑いものが出來て、數代續くことがある。又ツキミサウを培養し置くと、親と異つたものが突起と出來ることがある。それから實際目の前でやつて見ることも出來るのはジャガイモの葉を食ふ或る甲蟲をとりて、溫度の高い濕り氣の強い所に飼つて置くと、其子供に全く別のものが出來る。植物ではライマンニヤと云ふものや、ツキミサウなどの種子の出來る所へ或る藥を注ぎ入れると、其次の代には別の物となるのである。

以上の事で進化の方法に三通りある事が明かになつた事と思ふ。茲に注意しなければならないのは、此等は方法であつて原因でないと云ふ事である。多くの人は之を原因の如く考へて居るのは大なる誤である。原因は何故親と子が異るかといふ事である。此事は近來の研究で幾分か知れて來たが、先づ其大部は了解されて居らないのでダーウインも秘密中の秘密と云ふておる生物變化の謎が悉く氷解された如く思ふは極々淺薄な考へである。

▲伊太利の公孫樹とマルタ島の象

茲に進化の原因たる變化に大關係を存する二つの事實を御話せんに、一は外界の狀態の變化二は隔離である。此二つは餘程類似して居つて、互ひに原因結果の如く思はれるが幾分か異る所がある。外界の狀態の變化と云へば實際天變地異の爲めに、之まで熱帶の樣な氣候の所が急に氷や雪で被はれる所となるとか、淡水の湖水が急に地震で海と通じ鹽水が入るとか云ふ場合もあり、又動物や植物が人か或は他の方法で(風か潮流等で)新しき地方に移れたとき、或は自身の足か翼の力で旅行したときに受るのを云ふのである。例へば平地のタンポヽを高山に持つて行つて植へると、根が延び葉莖など小くなることがある。タデの如き陸の草を水中に引き込んで置くと水草となつて仕舞ふことがある。ネープルスの植物園へ見物に行つた時に、イチヨウの垂れておるのがあつた。不思議

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

だと思つて其理由を園長に質した所が、園長が云ふのに、南イタリヤは濕氣の强き爲めか、外國から移植した植物は枝の垂れるのが多いといふ事であつた。日本でも鹿兒島の屋久島に居る小さき鼠は他の所のと較べると餘程黑い、之も雨や濕氣が多い爲てあらう。雀なども二匹捕へて一匹は戶外に飼ひ。一匹は濕氣と溫度の高い室に飼つて置くと、羽根の拔けかわる時には共室内の方が餘程黑づんてくる。鳩の卵を同樣に處分すれば、矢張其溫室内のよりは色の濃い雛が孵る。

隔離や亦少なからぬ關係がある。之には無論外界の狀態の變化も伴つて居るが、同類中の交通が斷絕する故其間に變化が起る樣になるのである。例へばマルタ島の嘗て陸續のとき、象が大陸から、移住したか、此處が島となつてから以來は其象が倭小となつてしまつた。無論此小象か現今生存して居る譯でなく、只化石として殘つているのである。又パナマーの地峽の出來ないうちは、大平洋と大西洋と交通して居つたもので、魚も自由自在に游ぎ拔けて居つた所が、地峽が出來て通り拔をなすとが出來なくなつてからは、魚の形が漸々と變化して同じ先祖を持つて居つたと思はるゝものが此海峽の兩側で幾分か變化して現今生棲して居る。

さて此外界の變化や隔離の影響が一代の個體を變化して其が如何にして遺傳して、次の代までも關渉するかは大問題で學者問の論戰も中々酣で、今此處に詳く御話する事が出來ないが然し是まで逃べた事で生物の進化と云ふのはどんなものであるかの大體は御わかりであらうと思ふ。

▲進化論と宗教

生物進化論と云へば直ちに人の先祖は猿であらうか如何かの問題の如く考ふるのは誤りで、此問題も決して必要でない譯でない。極重大で他日詳しく御話しようと思つて居るが生物の進化論から見れば其の一部に過きないのである。

其から進化特に生物進化論と宗敎とは衝突のないのみでなく、反つて補助することが少なくない。リーラント、スタンフオド大學の總長デービツト、スター、ジヨーダンの書いた物の中にダーウキンの爲めに基督敎が純潔にせられ高尙になつたと云ふておる。是には慥に眞理があると思ふ。

絕島の半日

ふちらふ

小笠原特有のタマナ樹を寫すべく私は毎日公園に通ふのです、今日も朝飯が濟むと直ぐカンヴアスを引かゝへて、LENAと書いた白いボートが置いてある歸化人の家の前を通つて、

公園の何時もの木陰に畫架を据へたのです。内地では二月と云へば炬燵と首つ引と云ふ時候ですに、小笠原では、どうでせふ、ヽヽヽ木と云ふ木は盛に眞青でまるで夏の樣です。

タマナと云ふのは左樣、内地の交讓木と云ふ處でせふか。もつと大きな葉の、幹の色が極めて濫い綠色を帶びて、とばかりでは御想像に成りますまいが、兎に角畫家の私共から見て仲々に味のある木です。其木の屈曲た下半部を前景に眞白い砂、紫の水、コバルトがゝつた山を背景にして、「水際」と云ふ繪を作り上げよふと云ふのです。

山陰にある淸瀬の苗圃に通ふ男女の連がさゞめきあつて過ぎ去つた後は、靜寂として遠くで鶯の鳴く聲が聞ゆる許りです。日は對岸の高い旭山を余程上つて、其若々しい白金の光波は洪水の如くあふれ漲つて、山も水も渚もはた一木一石如何にも面白く變化づけられて居る。只もう此天地が今光の海に漂うて居るのです。私はかゝる光景に接する毎に、かの無量壽經に説き給ひし釋尊の深大なる想像を追懷して、七寶諸樹の想像が如何にも偶然でないことを感嘆せざるを得ないのです。此の「諸の寶樹行行あひ値ひ、恭々あひ望み、抜枝あひ準へ、葉葉あひ向ひ、華華あひ順ひ、實實あひ當り、榮色光耀として視るにたふべからず、淸風ときに發こりて五音の聲を出だす、微妙の宮商自然にあひ和せり」――ア、誰か繪筆を以て自然を補ふと云ふ？誰か繪筆を以て自然を美化せよと云ふ？、かゝる人は未だ眞に「自然」の莊嚴に相觸れざる人であります。私は唯々大自然の前に屈服するのみです。繪筆を以て自然を……神の光榮を讚美するのみです。あゝ私の身も暫しは光の中に同化し去つたのです。すると奥村の方から腹の出張つた仁王の樣な歸化人がフワリ〳〵と光の中を漂うて來た。「グードモーニング」と地の底からでも湧いて來た樣な沈んだ而かも何處となく余韻のある音調で歌つて挨拶した――私は此場合敢て歌つたと云ふ――そして暫く繪をながめて又光の中を漂ひ去つた。

十分もたつと此度は大村の方から可愛らしい小兒の聲「もち、もち、かめや、かめちやんや」と云ふたが聞えて來た。私はふと莊嚴無量の妙土に遊歩してる天人の歌聲が、光の波に傳はつて私の耳を刺激するのではないかと思つた。ふと返つて見ると襞もなければ無縫の天衣も纏うて居らぬ。四つばかりの男の兒と、四つばかりの女の兒とが手を引き合つてやつて來たのです。男の方はよつ程惡戯子らしい、私は此の兒の口から或は此世ならぬ天の妙音を聞くことが出來るかとも思つた。

「何にちておるんだい？オー臭ちやい」と繪具の臭氣に先づ顔をしがめて「あたい沼津から來たんちや」と説り出した。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「大變遠くから來たね、何しに來たの」
「父ちやんが稼に來たんぢや」
「何故父ちやんかせぐの」
「食られないから」
あゝ、どうでせう、この頑是ない可憐な子供が既に「働かなけりや食へない」と云ふ人生の第一頁を諳んじてるのです。
「どうだ金たまつたか」
「溜らないや、父ちやんがお酒呑で仕舞ふんだもの」と云つて彼は他愛もなくニコ〳〵と笑つて居る私はこの無邪氣な顏をツク〳〵と眺めて、一種の悲哀を感ぜざるを得なかつたのです。私の腦裡は直ちに一條の悲劇が――のんだくれの父、口やかましく罵る妻打擲さるゝ子供――電の如く開展して行くあゝ遙々と南洋の孤島まで出働に來て、得るところは只家庭の悲慘

と高まり行く負債計りとしたら、結極其の出稼も全く無意味ではあるまいか。彼のクヰックサンドに落ちた人は、生きんともがけばもがくほど、刻々に、底知れぬ砂底に沈んで行くと云ふ事ですが、私は此の親も一方に生きんとあせりつゝ、一方には益々深處に身を沈めて行く、誠に氣の毒な人間であると云ふ事と同時に、酒癖の恐るべきことを感ぜざるを得なかつたのです。子供は只私の顏をのぞいて無邪氣に笑つて居る、私は其の顏を見るともう全々其の親の事など打ち忘れて仕舞つた。
「お前の名は何と云ふの」
「あたい金作ちやん、おまへは」
「をれか、おれはデコボー」
「やあね、デコボー、デコボー」と彼は今迄はにかんでゐた女の子をかへりみて笑ひこけて居るのです

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「どうだ金作ちやん、おれと一所に東京に行かないか」
「いやだ、父ちやんと一所でなけりや」
「弱つぺイだなー」
「なんだこんちしよう」と慈姑のやうな拳をかためて方に打つてかゝらんずる勢である。而して私が幾度か頭をさげてあやまると、彼は傲然として
「弱ッペイだなー、」
「それから四五分の間散々あばれた末、幼き女王に促されて立ち去つた。手と手と引き合つて公園の木陰に歌ひつゝかくれて行く二人を見送つて、私はひそかに彼等の前途に幸あれかしと祈つた、先程から梢で頻りと囀つて居つたルリ鳥も何時しか飛び去つて又元の寂寞に歸る。暫くすると此度は五十計りの中人が來て後の方から頻りと感嘆しておる。
「一寸伺ひますがそりや眞寫と云ものでございますかなー」
「眞寫?、」私は一寸首をかしげた
「寫眞とは少し違ひますやうですから」
な……なーるほど、寫眞とは少しく違ふ故に倒に眞寫とは聞けば奇抜である。
「いや油繪つて云ふんです」
「はゝあ、それでは人の肖像も描けますんで」
「えゝ描けますとも。森羅萬象盡く……」

眞寫先生にも似合す、私の折角の漢語も通じなかつたと見ゆる。
「それでは私のを一枚願ひたいのですが、お直段は如何程で」
逐々私を寫眞屋と一所にして仕舞つたのである。老人をよく〜見ると島廳の印半纒を着た、多分小使でせう、何處から見ても誠に人の好さそうな御面相である。大底一枚五十錢か一圓で描けるものと思つてゐに相違ない、眞實の事を云つて驚かせるのも罪だと思つて、今は多忙で暇がないからと、體よくお斷り申上たのですが、それじや又お暇が出來ましたら是非と云ふので私の宿所迄きいて漸く立去つた。
老人と入代りに來たのは年頃の娘が三人、頻りにペチヤクチヤ囀づつてはクス〜笑つて居る。どうも畫の批評ではなくつて小生の人物評らしい。何がうるさいつて此の手相位うるさい奴はない。
私の癇癪玉も少々膨張して來た、アハヽヽヽ大喝一聲「うるさーいッ」とあびせかけんず一刹那漸く退去して仕舞つた。
どうもかう色々な人物に折角の感興を妨げられてはしかたす三猿主義の實行だー。それから約一時間殆ど側も見ず、聞きもせず、語りもせず、無我無中に筆を走らせてゐましたが、其間に、二三の人がのぞいて行つた、而して何とか云つたやうでしたが殆ど耳にも止めなかつたのです。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

やがて突然老婆の聲で

「若しやあなたは新聞にお書になる方ではございませんか」籔から棒とはこんな事でせう、私は私の腦髓が其意義を充分判斷し得た前にいゝえと云ふ音調が己に口から飛び出して仕舞つた。すると「左樣ですか」と如何にも失望の態である。不意打を食つて亂れかゝつた頭腦を少しく整頓してヨウ〳〵見ると、年の頃七十を二つ三つは越してるでせう、野菜の籠を背負うて二つに折んとする身體をヤッと杖一本で支ひて居る。而して如何にも悲しげに、彼の女の兩眼には涙が漂ふて居る。私は何とはなしに一種氣の毒な感を起さゞるを得なくなつたので、おもむろに其の理由を聞いたのです。すると「ハイどうも悲しくつて悲しくつて」ともう既に兩頰には數行の涙が流れております。彼女が八丈者である事は其のなまりでも知られるが、內地の私共には殆ど了解し難いので幾度か問返し聞き返して、漸く其の理由を推察する事が出來ました。

彼の女に一人娘——春技と云ふのがあつたのですが、十年前に清吉と云ふ同じ八丈男と結婚に成つて其の間に二人の子供迄出來たのです。彼等は互に相愛して側眼にも羨ましいほど愛しあつたのです。所が好事魔多しで、夫清吉は或時商用で硫黃島に出懸けたきり、どうしたか乘つてた帆船諸共行衞不明に成つて仕舞つた。それからと云ふものは春枝は鹽絕ち、火斷ち神に祈り佛に願つても遂に杳として其の行衞がわからぬ事茲に五年、止むを得ず昨年の秋夫の衣服を以て形許りの野邊送りを濟ませたのですが、其時からと云ふものは日に月に、只もう身が衰ひて行く許りで、老婆の看護も醫者の藥も何の甲斐無く、遂に去年の十二月頑是なき二人の愛兒を後に殘してあいなくこの世を去つたのです。

老婆は今それを追想して殆ど堪ひがたき樣子である。「ハイどうしてもあきらめがつきませんのだ、せめて新聞にでも出たら幾分か慰められる事かと思つてハイ、もしあなたが其の新聞にお書きになる方ではないかと思ひまして。」彼女は自分の止み難き悶々の情をせめて新聞にでも出して多くの人に泣いてもらひたいと願つて居るのです。私は其の單純なる心を思ふて、其の可憐なる親心を思ふて、實に同情の感に堪へませんでした。Man must work, woman must weep. とのキングスレーの詩は實に人の世のあらん限り動かす事の出來ぬ悲き事實です。私はつとめて彼の女を慰めて人の身の果敢ない事、新聞に出たからとて其れであきらめがつく譯ではない事、何もかも神樣におまかせするより外に仕方がない事を話したのですが、これが之のなやめる老婆に如何程の慰安を與へたか、それはわかりませんが兎に角私が聞いてやつた事を心から感謝してるらしい、「私はお前の心は充分お察しする僕は今〇〇に居るから夜分にでも遊びにお出、ゆつくり話しでも聞くから」老婆は幾度かうなづいて涙をふきつゝ去りました。

あゝ子を思はぬ親はないが親を思ふ子は少い。斯う云ふ私はどうでせう飄然として都を出でゝ殆ど百日、家を思はず師友を思す、此南洋の孤島に流浪の旦暮を重て居る身です、然し〳〵私の親は私の友人は必ずや陰ながら私の祝福を祈つて與てゐるに相違ない、あゝ私もなんだか悲くなつて來た、今日はもう止めだ止めだ私は怱々筆を收めて老婆の後を追ふた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

日記の効を知りたる私の實驗

元良よね

此頃いたづら小僧日記とか、おてんば娘日記とかいふ面白い本を、市中の書店で盛んに賣てをるやうです。此等の日記の様に讀者にお腹を抱へさせる様な目的の日記は別として、主婦たる者が家庭の日々の出來事を記して置くことは誠に興味のあることで、又時によりては非常な便利を與へるものでございます。例へば某所へ行たのは何日であつたか、或は何をどうしたのは何時であつたかといふ様な過去の事を、思ひ出たいと思つても中々思ひ出せない事があります。其事柄に連關した種々の事を思ひ合せて見ても、如何しても分らない事があるものです。私などは昨日の事を今日になるとコロリと忘れてしまふものですから、かういふ事は珍しくないのでございます。

殊に數日前のことでしたが、妙な事があたのでございます、それはかうです、末子が區役所からのお達しだといつて、種痘の度數を記入すべき書附を學校から持て歸りました。そして明朝登校の時分に持て參らなければならぬと申すのでございます、それで豫て種痘の節醫師から受けた證明書を出して見ました、ところが、明治三十七年のが最終で、其以後の證明書がございませんのです。然れども確か四十年の末か四十一年の始にいたしたやうに記憶してをるのです、皆もさう申すのです、けれども證明書がありませんから確かにいつと判然した事は分りません。醫師の所へ行て調べて貰つたらどうだらうといふ者もありましたけれども數多い中から見付け出すのも先方の爲め迷惑だらうと思つて躊躇しましたが、不圖思ひ附て日記につけてありさうなものだと、それから棚の上に放り上げてあつた古日記を取り下して見ました。まづ最初に開いたのが四十一年一月二十二日の所で、其處に枝折が入れてあつて、日記のつけじまひになつてゐました。何氣なく其處の記事を讀んで見ますと「〇〇醫師を招ぎて家族一同種痘をなす」と記してありました。實に思ひ掛けない事でした、長い記事でも無ければ無論名文でも何でもありません、ほんの數個の語ですけれども、この數個の語が地獄で佛樣はど尊く有がたく感じられたのでございます。又同時に私の責が輕くなつたことを感じて幾分の慰安を得たのです。と云ふのは證明書の見當らないのは私の過失でないといふ事まで此日記のおかげで分つたのです。それは斯ういふ理由です、日記の最終の翌日即ち一月二十三日、急の思出で、親類の病人を見舞ふために大坂に參りまして、丁度一ケ月程同地に滯在いたしたのでございまして、證明書は其留守中に醫師から受け取つたのですから

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

私の手許になかつた譯です、夫れから歸京後又日記を始めやうと思ひながら、つひ怠つてゐる間に、早や二年餘り過ぎてしまひましたが、二年前の古日記が今時役に立つとは全く思掛けない事でした。それで其晩から又つけ始めました。私のは極く〱簡單な、そしてとても他人樣になどお恥かしくて御覽に入れられないやうな拙いものでございますが、筆の御自由なお方は、成るべく精細におつけになりましたら、一層興味の深いことでございませうと思ひます。

私は又此種痘屆の一件から今一つ學んだ事は、器物の置場所に注意をせねばならぬといふ事です。各の物を各の定りたる場所に置くといふことは大切な事ですが毎日の樣に出入れするものはさう爲し易うございますが、めつたに出さない物は入れる時は覺いてゐる積で入れますけれども、長い間には忘れてしまふものです。夫れ故に大體の種類を分けて入れておくのが宜しからうと思ひます。若し私が今少し注意深い人間であつて、旅から歸つた當時、氣がついて證明書の有り處を尋ねてきちんと仕舞て置きましたならまでつかなくても宜しかつたのです。今後は一層氣をつけようと思つております。

米國教育家の兒童教育意見

記者云本編はヘンリーリチャヅ氏の婦人家庭雜誌に寄せたる意見の抄譯であります、事は專ら米國青年兒童の上に立論されてありますけれども現今日本に於ける教育の趨勢の上に尠からぬヒントを與へてたる事と信じます

私のよく識つてゐる、子供がつひ近頃寄宿舍に送られましたが、其時その子を連れて行つた叔母さんが學校長に面會して、自分の甥の一風變つた性分に就て滔々としやべり出し、「あの子は他家の坊樣達とは其性質が違ひまして」と其子の敎育について多少の材料と注意とを與へようとしましたが、學校長の眼色と顏色が變つたのに不圖氣が附いたので其話は夫れ切りに致しました。そこで叔母さんが「これは人樣もよく仰る事で御座いませうか」と聞いたら「あゝそうです」と學校長が挨拶しました。そこで此叔母さんは、自分の甥が思つたよりも他の子供と違つてゐないといふ事と、又深山の子供を上手に扱つておる學校の先生は、自分と同じ位に矢張りよく子供の事を知つてる事に氣がついたといふ事です。

此一場の物語は、子弟の問題を直接取扱つてゐるうちには、子弟を通して間接に其兩親や家庭の問題を當然取扱つておるといふ事を示しておるものであります

世事單純に運んだ昔にあつては、敎育といふ事は只單に家庭で育てる事に過ぎませぬ。いはゞ誠直で敬虔で勤勉な努力の連鎖で、それに新らしい輪のやうに子供が順番に鑄出されてゐたのですけれども、世が開明に赴き趣味が殖ゑ人事が複雜になると共に、敎育は公共の義務として是非缺く可らざるものとなつて、而も現今では非常に急激な勢で敎育が歡迎さるゝやうに變つてまゐりました。今迄子供の敎育といふ事を重荷としておつた家庭では、其責任を學校に轉嫁して仕舞ふ樣になりました。現時に於ける敎育問題の至難なことは此轉嫁の直接の結果であります。家庭は學校の爲めに其最高の責任を捨てゝ了まつて顧ない樣になりました。けれども學校の制度といふものはも

と／＼両親の責任を豫想して設けられておる者であります。そこで學校からは斯う云ふ叫び聲が聞える。家庭で善い躾のない子供はどうする事も出來ない。反對に又家庭からは、自分達の子供をどうする事も出來ない樣な學校は何の役に立つかといふ小言が洩れてまゐります。然し之は個人の材能の訓練は學校計りの職責であるといふ理論に歸着するので、從つて學校敎育の効果の標準を高むる事になる事と思ひます。

▲巧遲主義は拙速主義よりも望ましい

私共は從來實際的であるといふことを以て誇りとしてゐまして、利益を殖やすといふことばかりに心が奪はれて居つたので、人格完成とか又は個人の實力といふことよりも、機智に富むことか又は敏捷といふこと許りを主としてゐました。その手段や其仕事の性質などはまるで問所ではありませんでした。「其結果如何」といふことは吾々の標語で敏捷に機會に乘ずることばかりに氣がとられ、人格の完成は全然勘定に入れておきませんでした。然しかゝる時代はドンドン過ぎ去りつゝあります。私共はもつと深く洞察しもつと遠大に着目し、もつと能く領解し始めてゐるのであります。産業上の競爭に於て私共の當然逢著する訓練された材能は次ぎの物語でよく其消息がわかる事であります。

獨逸の青年が寶石商とならうと志し、學校の普通の課程を踏んだ後で、寶石商の練習所に這入つて同時に特別に製圖科をも修めました。五ケ年の課程が終はると、伯林の寶石商の店で商業の實際見習生となりました。學校在學中は英語も佛語も學むで可なりやれる樣になりました。一年後倫敦のボント街で職業を見付け、それによりて自分の英語の力を完成し、獨逸の最も良い顧客なる英米人の趣味に精通するやうになりました。英國で一二年過してから、伯林に歸つて來て、彼が最初勤めてゐた店に來て今度は製圖師の職に就きました。茲で彼の仕事は大分人の目を惹くやうになつて、直に紐育の寶石商の工場に雇はるゝやうになつて、獨立の地位と高給とを得るに至つたといふ事であります。此の忍耐持久の青年の話と、店から店へと飛び歩く辛棒强からぬ一般米國青年とを比較すると、其間に非常な相違を發見する事が出來ます完全と眞價なしには凡ての仕事は何の役にも立ちませぬ。

▲性格と實力とが何物よりも大切

然し個人の實力は只ある目的に達する手段でありまして、善い事にも惡い事にも應用さるるので有ます。實力にのみ志す職業的訓練は若し之を惡用する時は、大政治家なり又は大行政官にしても、政治上の破落漢や實業上の盜賊となる事は容易な事であります。吾々が最後の標的とする處は、其個人の人格の如何に存しなければなりませぬ、といふのは實力といふ事は單に才能と勤勉にのみ係つておりますけれども、性格は其人の稟性の上に存しておるからであります。吾々の意見は時に或は間違ふかも知れぬし、智識も亦或は貧弱なるを免れぬかも知れませぬが、併し人の人たる所以、換言すれば根本的要質は、吾々の性格をしいて他にないのであります、即ち如何なる職業を執

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

るにしても又如何なる場合に處するにしても、此の性格が至る處根本的の關係を有しておるのであります。然らば性格と實力とは兒童教育上先づ最初に注意しなければならぬ事であります。此二つの目的は遺傳によりて兒童自身に傳へられるか或は其境遇によりて作成さるゝか、又は他人の影響の結果によりて現はれて來るか、その何れの場合にせよ、凡て兒童の問題は如何にして彼等をして善良ならしめ優越ならしめ且つ强壯ならしむるかの困難に集まつております。併し私は、思ふ樣に兒童を教育する事は何故さまで困難な事柄であるかを怪しむのであります。何故といふにもと〳〵兒童といふものは「善いもの」になる事が好である、「强い者」になる事が好であります。然らば此の子供自身の希望を巧みに誘導したならば教育の効果は擧らずにはゐないと思ひます。健康な狀態を繼續するには極めて簡單な規則に從へばよいでありますから、兒童をして之に從はしむる習慣を確實に與ふる事が出來るなら、善くなるといふ結果を喜ぶ兒童の事であるから、只に健康上の事計りでよく、彼れ等が成長して眞面目なる人生の事件に逢着したる場合にも、吾々は教育の結果に信頼する事が出來る事だと思ひます。

▲性格は生み出すよりも練習が大事

兒童をして善良な感化の下に置きさへするならば、兒童は不知不識の間に其感化に泥んで仕舞ふものである、とはよく世の中の人が云ふ事であり又實際そうでありませう。丁度それは石工が身邊に拾てゝある煉瓦を其壁に築ぎ込むと同じてあると云ふ事が出來ます。然れども此論理には一つ破綻があり虛僞があります。斯の如き方法の失敗するのは明瞭な事であります。吾々は自分の子供が煉瓦職工であるとは思はない限り、其石工の感化影響を被つて一緒に壁にまき込れようとは思へないのであります。此の話は子供の周圍の影響と感化とを、其煉瓦の原料と見做さなければならぬ筋合であります。たとへ其感化が優越なものであらふとも其善良な感化は只單に吾々の煉瓦職工に對して黑い粘土として用ゐられる計りで自分で煉瓦を作り又は其壁を築き上げねばならぬ兒童にとりては、かゝる影響感化は或は望ましいものでないかも知れませぬ。

性格が强く發達するのは只經驗苦勞克己の結果であります。反對に弱くなるのは忌避屈從放逸の結果であります。性格の訓練が性格を生み出す事よりも寧ろ望ましいと云ふのは、此理に基くのであります。運動家の練習は其好適例とする事が出來ます、運動家は是非共克己苦勞の訓練を經なければ到底勝負に於て勝つわけにいきませぬ、彼のデモ運動家は其勝負を見物し其記事を讀んで滿足し、自分では其實際の訓練に從事する事を欲しないのでありますが、之の理は單に運動上のみならず、如何なる職業の勤務にも當嵌まる事であります。之と同樣に自分の責任に當つて、其重荷を負ふと思はぬ子供は、如何なる好い境遇にあつても必ず見込のない脆弱者となる事は請合であります。

三月は柳いとよし舞姫の
玉の姿をかくすといへど　（晶子）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

道徳の基礎

海老名彈正

昔から今に至る迄、達人の中には妙に相合するものがある論語に己に欲せざる所、之を人に施す勿れとあるが、これは獨り孔子の言ではない。彼のユダヤの聖人ヒルレルも亦同じ言葉を傳へて居る。又彼等より古の人にして、己の如く汝の隣を愛す可しと敎へたものもある。が此等の人々を通じて我々に與へられた道徳の基礎は何であるかと云ふと己である。曾子は孔子の所謂一貫したる道を忠恕と解釋した。忠恕とは己を推して、人に及ぼす事である。更に之を分り易く云へば我躬をつねりて人の痛さを知る事である。これは理論を離れて日常の行から見ると、極めて明である。世には飲酒家もある。放蕩兒もある。其他色々の人がある。けれども各自己の好む所を以て、人に勸める。それは何故か。己を推して人に及ぼすのである。酒は甘い。人も飲んだら嘸甘からうと恁う思ふのである。殊に酒宴でもして居る時に友が來ればまあ一杯やれと云ふ。又奇麗な着物を好む人は他人に物を贈る時にも、自分の好きな物を選ぶ。如斯自分を道徳の本位とするのは其人として見れば、强ち咎む可き事ではない。更に極端な場合を云ふて見ると、盜をなして牢獄に居るものがあるとする。此者が牢より出る時、喜んで迎へる者は誰か。矢張盜人である。彼は甞て獄門を出る時、迎へられた事の如何に嬉しかつたと云ふ事を知つて居る。故に他の者が出る時には己を推して歡迎をする。これも囚人として見れば一概に惡いとばかりは云へない。寧其處には人情の機微が現はれて居ると思ふ。けれども我々士君子として見る時は之に賛する事の出來ぬのは勿論である。如斯盜は盜と相結び、博徒は博徒と黨をなし。義人は義人と相携へて進む。世は誠に樣々である。然らば何故に或者は義人となり。或者は盜賊となるか。それは己其物の如何にある。人は誰でも、自分を標準として、行ふのであるから、其出發點が狂へば結果は皆惡くなる。昔は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

己は惡いものである、殺さなければならぬと考へた者もあるけれども、實踐道德の上から見ると、如何なる規則があらうが、學問があらうが、己を本とせない行はない。己が惡るければ行ふ所は惡德となり、己が善ければ善良の德となる。行ふ方法は等しく、己を推して人に及ぼすのであるが、本が立たなければ末は修まらぬ。であるから、眞の德を行はんとすれば、先づ善人とならなければならぬ。けれども基督の救の道は人に善をなせと云ふ事を主眼とせぬ。其主眼は、時は滿てり、神の國は近けり、汝等悔い改めて福音を信ぜよ、と云ふにある。即ち善人たる事は改悔の結果と見たのである。改悔は我が品性を根本より變せしむる。宗教的に見れば善人は一人もない。善い積で居るが、善くはない。己を推して人に及ぼすのではあるが、善くはない。故に己其物を改めなければならぬ。過去は凡て間違ひであつた。これからは斷然新生涯に入らうと腹の底からきめてかゝるのが改悔である。又基督が爾曹改まりて赤子の如くなるに非ざれば、天國に入る能はずと云はれた。其幼子の意味は色々あるが、其眼目は本來の姿に返ることである。言葉を換ふれば新に生るゝのである。如斯根底が一度定まれば望まずと雖善が伴ふ。善き木は善き實を結ばざるを得ぬ。

小なる我と大なる我

それならば新に生るゝ仕方はどうか。これは人間の精神上極めて大切な問題である。普通己と云ふものには二つある樣に考へらるゝ。或は私心と本心、或は小我と大我、或は靈と肉と云ふ具合に區別する。而して低き我を本としてかゝるとパウロが肉に依つて生るゝものは肉なり。肉の事を思ふものは死なり、と云つた樣に我其物が墮落する。けれども高い我に依ると、淸く尊くなる。之は實驗上からはどうしても動かす事の出來ぬ事實である。さらば、如何にして一つを棄て、一つを取るかと云ふと、所謂克己である。肉の我を亡ぼして私心に勝つのである。禪の如き苦しい修行も、つまりは己をたゝきつけて、邪念を拂つて、本心の光を放たしめんとするに外ならない。儒教で云へば、心を誠にし、意を誠にするのである。心を一筋にして、意の發する所を誠にするのである。即ち起り來る私心私欲を抑さへて、新に出づる美しい心を本とするのである。故に靜坐は儒教中最も肝要なる修德の法と認められた。然るに基督教では少しく趣を異にして居る。勿論以上の倫理的方面も具へて居るが、其特色は寧ろ宗教的な所にある。

儒教の孝

私は此基督教に就て話す前に儒教の孝と云ふ事に就て考へて見たいと思ふ。或人は儒教には溫い方面が無いと云ふ。け

れども孝は見識じやない。鍛錬ではない。愛である。大人は赤子の心を失はずと云ふが、大人でなくとも、親を思ふ時には三つ子に返る。五十になつても、百になつても父母は戀しい。其心根は眞に美しいものである。故に孔子は云つた。孝悌は仁をなすの本かと。孝悌を以て、父兄に事へるのは道德の基礎である。これは子供への注意かも知らぬか、父母在す時は遠く遊ばず、遊ぶに必ず方あり、と云ふが如きは如何に美しい貴い、意味があるか分らぬ。謂はゞ儒教は近き意味の祖先崇拜である。儒教の中には宗教的教訓は少ないのであるが、父母を神の如く考へて、之を大切にする事恰も祭るが如くした所は宗教的と云はざるを得ない。然るに近來は如斯美風は次第に衰へて理窟ばかり云ふ樣になつた。けれども儒教は理窟じやない。孝と云ふ溫い所である。陽明が山寺を訪ねて、禪僧と遭つた時のあの話は誰も知つて居る所であるが、善く味ふて見ると儒の眞髓に徹して居る。座禪觀法の山僧に向つて汝親を思ふ心なきかとやつた所は一矢先づ其胸を射た概がある。平生思つて居た事であるから山僧の心は亂れた。思はざらんとすれども煩惱止み難し。其答は無理はない。そこで陽明は一喝して、僧を故山に歸らしめしたと云ふ。事は幾百年を經た昔に起つたのであるが、今日猶其高風を慕はしむものがある。そこが儒教である。

大慈大悲

若し佛教に於て溫いものがあると云ふなら大慈大悲である智識じやない。悟じやない。五年、六年、座禪三昧に入つても、慈悲の心が無いなら、何もならない。或禪僧が我々は貴君方や、淨土宗の人々の樣に、有り難いと云ふ溫い心になれぬ、どうしたら善からうか、と尋ねるから、それなら何はさて措いて、衆生濟度の大慈大悲をして貰ひたいと云ふた事がある。其後此人に就ては聞かぬが、自分は今でも然うなつて呉れゝば善いと望んで居る。禪で悟つたと云ふ人は私欲を斷ち、妄想を斷つ事は出來やう。けれども其悟りは冷めたいものである。釋迦の尊いのは其處じやない。哲學者としては彼以前に偉いものがあつたかも知れぬ。恐くは馬鳴、龍樹の輩でも彼より勝つて居つたかも知れぬ。然るに釋迦だけが群を拔いて居るのは瞑想に安んぜすして、寧ろそれを離れて、衆生濟度に出た、やさしき心があるからである。大悲と云へば憐れに思ふ所がある。涙がある。迷ふて居る者、穢れて居る者を救はんとする熱情がある。それが貴いのである。

基督教の孝

それなら基督はどうであるか。儒教の孝を輕んずるか。否寧之を出發點とするのである。孝は自然である。どこ迄もはぐゝみ、育てねばならぬ。唯注意せなければならんのは我々

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

人間の孝は道理で識別し、意志を以て决行する點に存すると云ふ事である。若し愛すると云ふのみなら、猫にもある。犬にもある。我々の孝は明に此等の者と區別せらるゝものでなければならぬ。儒教でも此處は常に戒めてある。けれども道理其物を慕ふと云ふ大孝に至つては未だ足らない。我々の云ふ神は肉に於ては關係がない、全くの靈である。それに對して父よと云ふ。信ぜぬものには分らぬが、其處が基督教の特色である。抽象的に眞善美とか、主善とか云つても未だ盡されぬ。誠なる者、善なる者、生きて働く人格であると見るから、愛を感ずるのである。自分以上に恐しい、嚴な力があると見ただけでは父子の關係とはならぬ。道義上の君臣である。日本人の如きは大抵此點から結ばれる。卽神を宇宙の主宰者と見て、是に忠義を盡すのである。忠義は我國の秀粹である。貴いには違ひない。けれども其處は義が勝つて、愛の足らぬ所である。宗教上からは寧ろ大孝と見る方がよい。卽ち上から保つものと、下から仰ぐ者との意志が兩々相合して初めて孝の意義が全ふせらるのである。故に我々は神と性を同ふするものでなければならぬ。然らずんば神の子じやない。仇し子である。

神の子の自覺

之を心理的の方面から見ると、人は理性に適ふもの、清いもの、情念の美しい、温い所を欲するものである。誠なる神を欲するものである。故に眞善美に對しては滿腔の精神を傾注せざるを得ない。何となれば美も、善も、眞も皆靈なる神につけるものであるからである。恁うなると凡て心に發するものは皆善くなる。或人は人間は卑しき者である、惡い者である。之が基督の道に入るのは例へば臺木に繼穗をする樣だと云ふ。けれども臺木に靈能がある。神を慕ひ仰ぐ、素養がある。それが時を得て生る。肉を破つて、肉を越ゑて生る。ナザレのエスと我々とが何處も同じとは云へぬが、肉に包まれたる清いものがある事は爭はれぬ。それが多くの人には人格とならずして、奥の方に陰れて居る。であるから時として、光がひよつと出る。彼の人は見かけによらぬ親切があるなどゝ云ふのはそれである。けれども一寸輝いたのみで直に消ゑて了ふ。それが眞實のものとなるには信仰となり、智能となり、意志となつて、神に結ばれねばならぬ。此處迄來ると、求めずして道德は現はれる。故に道德の基礎を一言にして云へば、神の子の自覺である。眞の人は修養ばかりでは出來ない。鍛煉ばかりでは出來ない。如斯見れば道德と宗教とは離れんと欲して、離るゝ能はざるものである。と云ひ孝と云ひ、愛と云ひ、要するに神の子たる人格の現はれに外ならないものである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

摘草集

▲女子解放の聲

文學博士　井上哲次郎

尤も昔風の柔順といふ事は、女德の中でも大切なものに相違ありませぬ。けれども柔順は頓て卑屈に陷り、卑屈に陷る結果は、男子の我儘を許すといふ弊を生じます。儒敎では女子に柔順の德を敎へて來ましたが、それが爲め男子が勝手な事をして女子を踏付け、遂には如何はしい娛樂に耽つて、其極糟糠の妻を堂より下だすやうな事も屢次ありました。即ち男子が餘り我儘をして、女子に大切なる柔順の德を害用した例は、澤山にあります。そこで歐米の空氣を吸うた新進の學者敎育家が、此弊風を救はんが爲に、女子に獨立思想を皷吹して、大に刷新を圖らうとしました。强ち惡い事ではありませぬが、併し獨立思想を皷吹する人々の中には、隨分極端な人があります。日本古來の美しい女德を基礎として、之に歐米の長所を加味すれば宜いのに、唯總て從來の風俗を惡いものと思つて、根柢から之を覆へさうとする者もあります。甚だしきは、女子に獨立の必要を說くといふよりは、一歩强く女子解放を唱ふる人があります。女子が奴隷となつて居るのなら、夫も可いでせうが、今日の女子は、決して奴隷になつては居りませぬ。然るに籠の鳥のやうに思ふて、解放などゝ言ふのは怪しからぬ事です。我邦從來の女德といふものを能く考へないから、恁んな見當外れの事を言ふのです。隨つて女子に、一の誤解を來たさせるのです。其一つの誤解は、一種ひねくれた、變テコな個人主義者の出て來たのでも判かります。(斯民家庭)

▲女子と技藝

女子美術學校敎務主任　谷　紀三郎

此頃或る人からかういふ問題を質問された事があります、今の女子の技藝敎育は漸次盛んになつてゆく樣に思ふが事實は怎麼あるか、又其結果技藝敎育を重んずる爲め自ら精神敎育を輕んずる樣になりはせぬか、若し然ならば如何にして救濟すべきかと云ふ事です、私は此質問に對して女子の技藝敎育が無論好望であるといふ事を答へました、實際世間では近來女子の技藝を大層重く見る樣になりました其證據には此兩三年來東京の女學校が何處でも振はないとして居ります中にも技藝の學校だけはさのみ生徒の增減を見る程の影響を受て居りません、此は怎麼いふ理由かと申しますと高等女學校あたりを卒業した生徒が從來ならば先づ學問の方に行かうといふ傾きがあつたのですが近頃は其反動で高等女學校の卒業生が更に進で勉强しやうといふ時には、學問といふ方にしやうか、夫とも實際の技藝を修る事にしやうかといふ分岐點に立つて、迷ふ樣になりました、玆に一寸煩悶もあるのですが畢竟今迄の世間の經驗を照して見ると、二三年勉强するには、學問よりも技藝の方が好い、萬一半途で止めなければならない樣な機會になつても學問なら途中で何にもならぬ事になるが、技藝ならば一針の技だけでも身に付くから世に立つ上に直目に見ゑて役に立つ、斯ういふ理由で技藝を修めておかうといふ者が多くなつたのであります、勿論學問を修めるのと技藝を修めるのと孰れが利益であるかは今暫く疑問ではありますが、併し女子が技藝といふ事を等閑にして學問にばかり浮身を窶すといふ弊よりも、實際の技藝を重く見るに至つたといふのは喜ぶ可き事だと思ひます、其次に起る問題として技藝敎育が斯う進んだ結果は、精神敎育が疎かになりはせぬかとの事も尤な疑ひではありますけれど、之は遣樣次第で如何でもなる事で技藝の一方に精神敎育を怠らぬといふ準備さへあれば、無論立派に育て上げられる事だと思ひます、現に私共の經營して居ります學校などは創立當時から其考へで取懸りましたから、技藝の學校で居ながら實科と學科とは殆ど半分宛の均衡を保つて居ります

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ので、試験採點の時などでもある生徒は技藝が出來て居ながら學科の出來ない爲め落第させる事もあります、然ういふ時は職員會議などで大分問題になりまして技藝の學校だから學科が多少出來ない位は大目に見たらば可からうとの説もありますが學校では決して其説に據らないで飽くまで學科をも重く見てゆく方針にして居ります（時事）

▲裁縫教師の人格

近頃は妙齢になると大概女學校で教育を受ける者が多い爲め裁縫も自然其學校の教科として習ふ樣になつて居ります從つて昔の樣に「裁縫のお師匠さん」の處へ通ふ者も至極稀になりましたが此裁縫の先生の人格は誠に子女を育てる上に最も注意すべきものであります．今日の女學校の裁縫科は他の普通の學科と同樣に椅子に腰を懸け卓を前に置いて行ふ處もありますが大部分は矢張裁縫室だけ疊敷になつて居りまして此室で一人の裁縫先生を取卷いて多勢の生徒が裁縫のお稽古をするのが常であります．で時間中は談話してはならぬ事になつて居りますもの丶手だけを働かし、口の方は暇な仕事だけに動きもするとお話が始ります然ういふ時裁縫の先生が沈着な嚴肅な人ならば申分有りませんが萬一口輕な人で生徒と一緒になつて世間話や他人の批評などする樣な人であつたら假令技術が怎麼に立派に出來る人でも先生としての資格は全く無いので甚しいのになると他人の髮容の噂や芝居の噺などに打興じて居る樣になります夫れでは娵を町の賤しい仕立職の許に通はせると同樣教育的の價値は全く無いので學校で一週間何時間の倫理に如何に先生が口を酸くして人格の修養を勸めても夫れは全く打壞されて其結果は實に恐るべきものとなります殊に技藝を中心とする女學校では人格ある裁縫教師を選ぶ事が甚だ肝要であると思ひます（時事）

▲新案の貯金法

某夫人

貯金の必要は誰しも感じ乍ら中々實行する事が出來ぬもので御座います。夫れで私共はかう云ふ一新方法を考へ出しましたが、つまり消費税を定めて夫れを貯金するのです。假令今月は食料に消費税を掛ける事と決めたとすると、（尤も其高は各自の隨意ですが假に一割の税として）十錢の魚肉を買へば一錢蓄へ、五十錢の牛肉を買へば五錢蓄ふると云ふ樣にして尚税金が五厘以下の端數になる時は五厘に切り上げ、六厘から九厘の間の端數は一錢に切り上げる事にします。夫れで今月は食料に消費税が懸つたとすれば、來月は衣服の類に消費税が掛る。其又次ぎには家屋費の税にするとか、或は主人の小遣の税にするとか云ふ樣に月々其消費税を掛ける物を取り替へて參りますと、案外に興味のあるもので御座います。尚此消費税の元則としては現金で一々支拂をする其都度消費税を取り立て丶貯蓄の方へ廻す樣にしなければなりません、かうしますと金高も極僅かで目に見ねませんし、案外苦痛にはならぬもので知らず識らずの間に貯金が出來て參ります前に申した樣に現金で買ふ時は通帳で取るよりも一割二割安う御座いますから、つまり通帳で取つて居る意になつて居れば此税も譯のないもので意外に容易に餘價に貯蓄が出來てまゐります（婦人界）

▲煮た牛乳は役に立たぬ

醫學協士　二木謙三

そこでかゝる黴菌が牛乳の中に這入つて居るとすればどうしたら善いかと云へば、譯の無いことである、煮たならば良い、何も餘計な衞生的牛乳試験は要らぬじやないかと云ふ斯う云ふ議論があるから、日本では牛乳は是非煮なければならぬやうに考へて煮て居る。煮て子供に飲まして居るが、けれども二三年來研究された所によると、牛乳を煮ると必要の部分が失せると云ふことが判つて來た、即ち牛乳に最も必要なる部分が二つあるが、第一の部分は直接にそれ自身が營養物となる所の脂肪及び蛋白質である、それから第二の部分は夫れ自身が營養物となるのではないけれども、間接に其蛋白質を消化及び同化せしむるに與つて力ある所の多くの醱酵素及び他の有害なる種々の黴菌を殺ろす所の物質即ち抗菌素等である。それで牛乳を煮ればどの部分が失せるかと云ふと、其の後者即ち營養物を消化及び同化するに助けとなる所の部分及び黴菌を殺すに働く所の部分が失せるのである。煮て殘される所のものが蛋白質と脂肪だけである．其處で煮た牛乳を子供に飲ますると云ふことは丁度初生兒に口を開いて肉やパンを食はせると同じことになる、即ち乳を飲ませる効用は少しも無い。元より人乳即ち母乳が一番よいの

であるが、其代りに牛乳を用ふるさ云ふこさも要するに幼兒の消化器管が完全なる消化機能を備へて居らぬから乳中の第二の物質がそれを補つて初めて幼兒の消化及び同化を完全ならしめて、其發育を遂げしめて居る。それを煮て仕舞ふたならば何の役にも立たぬ丁度牛の肉なり豚の肉なりを買つて細かに刻んで食はせるさ大した差が無くなる、それであるから小兒は煮た牛乳を飲んで消化器病に罹つたさ云ふ實例は私が申すまでも無く澤山あるのです、母の乳の頁いさ云ふのはまた此理によるもので、幼生兒には齒がないからして、母より生きたる成分を注ぎ込み營養物さ同時に消化素を入るゝのである、幼兒に牛乳を與ふるものはよく〳〵此點に注意せればならぬ（衛生新報）

時事の折々

▲新政黨の樹立▼

昨年以來噂とりどりの新政黨談も、本期議會の總豫算議了後愈々眞ものと成つて現はれました。これまでの由來はなかなか面白さうでもあるが、色々な駈引とか情實とか政略とかが重なり合つてゐるから、局外者には解り兼ぬる筋合もあります。で之は茲に省略してたきますが、此度の中央俱樂部と立憲國民黨との樹立はとにかく世間でいはゆる肥滿症に罹かつてゐると云はるゝ立憲政友會といふ二百五名の過半數黨に對立する政黨であつて、之によつて政界の色合が黨派の上では三分された譯であります。勿論、前者は大同俱樂部と戊申俱樂部の一部と合せて五十名、後者は進歩黨、又新會戊申俱樂部等を合せた九十二三名、兩者を合せても仲々政友會に匹敵することは出來ぬ。して近來の流行語でいへば、前者は官僚派で後者は純民派であるといふことですが、之は何を標準として左樣申さるゝか、記者には解りませぬ。政黨は國民の後援を待たねばなりませぬ、國民の意思を基礎とせなければなりませぬ。政黨の立憲政治に大切な政治上の理由は茲に在るのであります。官僚派といひ純民派といふも、何れ國民的勢力の上に立つてゐるわけですが、其大體の黨略方針が、政權並に當局者の云爲に傾倒する度合より見れば、この流行語も略ぼ解釋がつきさうであります。何れにせよ、國利民福を主眼とし、其範圍内に於て遠大の政治を翼替して行くといふ點に於て政黨の存在する理由が明瞭に私共に會得さるゝならば此上なきことでありませう。

中央俱樂部は三月一日に發會式をあげ立憲國民黨は三月十三日に結黨式を擧げました。で此離合結黨に奔走した人々で世間に表はれた人を列擧しておきます。前者では、中村彌六、安達謙藏、肥田景之の三氏、後者では犬養毅、大石正巳、河野廣中、島田三郎、坂本金彌、片岡直溫、仙石貢の諸氏であります。

▲未成年者飲酒取締法案▼

代議士根本正氏が每年の議會に提出さるゝ同法案は本期議會の議題に上りましたが、服部綾雄氏から修正意見が出で、未成年者に酒類を販賣した者を處罰すとの要旨で、衆議院だけは通過しましたが、貴族院では、醫學博士大澤謙二氏の熱心なる賛成がありましても、男爵石黑忠悳鎌田榮吉兩氏が、未成年者の禁酒は法律上取締るべき性質のものではなく、道德の感化、家庭の注意によりて取締るが至當だとの反對理由が勝を制し、むざむざ委員會の否決する所となり、本會議でも

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

委員會の決議を是認するに至りました。根本代議士の熱誠は私共の毎々感謝する所であると同時に貴族院内の反對意見者の三省を願ひたい。もとより法律は萬能なものでありませぬが、成法が、惡性の矯正上主要な役目を果すことを忘れてはなりませぬ。殊に惡少年の跋扈は其酒色に荒む財力をえんがため、他の無垢な少年を暴害するといふことは近頃の東京朝日新聞の連載する統計的記事でも明かであります。記者は、根本代議士が、上院の暗雲を打破つて多年の宿願を成就されむことを自他のため、家庭のため、國家のため祈念して止みません。

▲有妻姦に關する刑法改正請願▼

これも、年々矢島楫子老女史が帝國議會に請願さるゝものでありますが、本年も委員會で不採擇案の一となりました。いつ此請願がせめて採擇となり、本會議に上ぼせらるゝに至るか、前途覺束ないやうな感じもせられますが、此請願の不採擇は偶々以て男子の暗黑面を自ら證明してゐる譯だらうと思ひます。男子にして其男子たる體面を維持しない限りは、此請願は採用されますまい。で記者は老女史が不屈不撓の勇氣を以て此問題の提案者たることを希ふと同時に、自ら侮りて他之を侮るといふこともありますから婦人諸君が女性全般の面目上男子に對する態度について常に精思されむことを望みます。

▲外國人土地所有問題▼

明治四十四年に實行さるべき條約改正の準備案として、外國人土地所法案は關税改正案と共に、本期議會の重要なる議題となりました。元來外國人が外國人の權利として我國の土地を所有することは明治六年の太政官布告で禁止されてあつたのであります。勿論居留地の永代借地權は之を認めてゐました。然し實際上國人が内國人の名義を以て土地を所有してゐるのが今日多數の例となつて居ります此度我政府當局者は條約上の相互主義に基いて、此法案を提出したといふことで、世論もとりどりで或は時機尚早しといふものもあり、或は歐州諸國は措いて問はず、各州各別の憲法法律を有つてゐる米國に對しては、折角の相互主義も其效を實現するはけには行くまいと云ふものもありました。が、兩院議決の結果、結局政府提出案に一部の修正を加へて可決する處となりました。土地の區域から申せば、北海道、樺太、臺灣等の未開拓地並びに國防上必要な場所を除いては、凡ての土地が所有し得らるゝこととなり、その有權者は、現に日本に住所若しくは居所を有する外國人、並に、日本に於て登記をうけた外國法人に限るといふが其主旨であります。條約上對等相互の主義を基礎とする規定が立法の手續を經た譯ですが、條約は文獻上の成功をなすとも、其背景たる國民全體の經滿上道德上其他の實力が相伴はざる限りは、空文となり或は却りて之が他日の係累となる虞があります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

隨感

多忙なる生活に處するの道

安井哲

▲我々は今少し物事を事務的に處置する習慣を養ひたいと考へます、例へば集會の通知が其期屆くかと思へば、既に出席の有無を面たり問はれて、直に出缺席を口答したのに、再端書で問合を受けたり、面會に都合よき日を問はれて、其日を通知すれば、先方よりは其日に訪ぬるとも訪ねぬとも返事がなく、止を得ず此方より問ひ合はせるといふ樣な事は、日々起る事實であります。世の中が忙しくなればなる程、成るべく手數を省いて、一度で用事が辨ずる樣に、其順序や前後の關係等を豫め考へ置く事が必要であると考へます。殊に女子は物事を處置するに順序の立たぬ事や、始あつて終りなき事などが多く、不知不識他人に迷惑をかける事がありますから、是等の點には余程能く注意する事が必要であります。

▲吾國の集會の仕方も改良すべき點があると思ひます。即相談を先早く濟ませて、其れからお茶を飲みお菓子を食べるがよいと考へます。そうすると、忙しい人は相談を終はれば、早く歸られますが、茶を飲み菓子を食べながらでは、眞面目に相談も出來ず、且又多くの時間を要します。喫茶して樂しく友と語るのが目的ならば、無論茶菓が主でありますが、相談會の場合には相談が主とならねばなりません。是等の點は未だ十分に時間の貴さを解せず、眞に多忙の生活を經驗せぬ者には、十分に了解が出來ぬのであります。

修養の繼續

元良よね

▲元來婦人の役目は家を治め子を育てる事ですから、讀み書きすらろくに出來なくても、昔時はそれで通て來たものです、けれども現今はさうは參りません。そこで大方の人はかう思つて居られるやうです。まづ婦人が高等女學校を卒業して、其上に裁縫が出來てお料理が上手で、又其上にお花も生けるお茶もたてられお琴も彈けるなら充分、所謂良妻賢母の資格は立派に備つてゐるとかういふのです。然れども私思ひますのに、如何に怜悧な生れつきの人でも、生後十七年や十八年間に大して偉くなれるものでもありますまい。さらばと云つて婦人が幾歳になつても、學校通ひを續けることは無論出來ません。處がたとひ學校は退きました後に、或は家持や子持になりましても又は老年になりましても、心掛一つで自分の進歩を續けることは出來ない事ではないと思ひます。裁縫お料理お茶お花いづれも婦人に取つて大切な技術であつて、此等の事を充分に心得てをりませんなら婦人の役目たる家を治める上に大さう不自由を感じませう。それですから誰でも此等は是非とも修めねばなりませんが、尚ほ其上に出來得る限り學問や又社會上の知識を得るやうに努むることも大切だと思ひます。お恥しい話ですが、私初め例へば電車といふものに就て、どれ程の知識を持てゐるかといふと、電車は電氣の力で動くといふ事、九錢出して往復切

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

符を買へば二度乗れるといふ位のことは知てゐますが、其以上子供にでも問はれると返答が出來ません。でも電車の構造は複雑なものでせうから、専問の人でなければ詳しい事は解らない筈ですけれども、萬事がこんな風で、好奇心の充ちた子供だちから、毎度いろ／＼な質問を受けても知らないだらけで閉口いたしますこれではならないと思つても、つひ取り紛れて日々の新聞すら讀みそこなふことが珍しくないといふ様なわけですから、法勝寺の入道前關白太政大臣はわだの原など〻餘計なことは憶ひてゐながら、現今の内閣大臣方のお名を一々擧げて見よとでも言はれると少々まごつく方で、政治の事とか社會の活動の有様抔はまるで知らないといつても宜しい位で何ともお恥しい次第でございます。それでこれから成可く社會上の事柄や又出來るなら學理の研究など〻云へば餘り大袈裟ですけれども、講義録なり雑誌なり或は講演會なり、あらゆる機會を利用して知識をひろめるやうに努めたいと思ひます。何分にも日進月歩の世の中ですから油斷してはゐられません。例し何はさて置き一刻も忘てならぬものは心の修養でございます。我々信者は信仰を土臺として絶えず心の練磨をし、其上に少しでも知識を得技藝をも習ふといふ風に心がけねばならぬと思ひます。

訪問客と其言語

「言語は壓制された思想」といふ諺が、どんな意味を有つてゐるかは、はつきり解りませぬが、とにかく、言語は私共の思想を他人に傳へる上で最も力強く、末々まで遺るといふことをいうてゐるかと思ひます。言語を謹むとか、謹まねばならぬといふ事は、此ためであります。ことに、他人の家庭を訪問する場合には、其お宅にお子さんがあると、御愛嬌をふりまくつもりで、お子さん方に、かれこれ、色々のことを申すことがあります。此時萬一、野卑な裏店風の言葉でも使つて御覧なさい。子供はすぐまねてしまひます。まねは狎れそめのいろはとでもおもつてゐるのが子供の常、訪客の習であります。かうなると、その兩親や其他身内の方々が折角善良な言葉使ひをやらせて居らる〻苦心も全く水泡に歸する譯ですが、まさか訪客をき〻咎めすることも出來ぬのでありませう。こんな事は、極瑣細なことでありますが、之は、御子さんを有つた兩親、お子さんのある家庭を訪ねらる〻方々が、直ぐ思附かる〻事かと存じます。（一記者）

子女教育上の覺悟

▲現代婦人程種々なる注文に苦しめられつ〻ある者なし。婦人の獨立を確實ならしむるが爲に技藝教育に就かしめよといひ、或は女子にも亦大に高等教育を施すべしと説く。臺處向の女子を作れとの聲に對して良人の職業を理解する能力あらしめよとの聲響く。

▲今や將來發展の道程に立つ幾多の高女卒業生諸姉は其の出發點に於て既に早く其紛糾せる岐路の多きに迷ひ、父兄と雖も其子女の進路に翼賛するに何等確實正當なる意見と決定とを與へ得ざるが如し

▲過渡時代に於ける現社會の混沌たる思潮に處するの難關は此に在り、聰明と同情とを以て父兄も子女も之に當るべき覺悟の必要なる所以亦爰に在り。教育する

父兄は子女に教育せられ、教育せらるゝ子女は、父兄を教育すといふ相互教育の主義が確認せられざる限りは、明治の子女教育は永遠に呪はるべし。

編輯だより

▲紫だちたる雲のたなびきたる、春はあけぼのと古の才女が云けん、實にも山ぎわ少し白うなりゆく頃、野の末山のほとり、淡く濃くかすみ渡りて、空にも地にも夢みる樣の光充ちたる長閑なる景色に接し候ては、今更に陽春の情意のこまやかなるを覺ゑ申候。うち煙れる青柳の糸、緣深き若草の香、ゆるやかなる流れの歌、さては梅の花鶯の聲など、萬象悉く新意を傳へて人生亦悠々たる希望にみたさるゝを覺ゑ申候。

▲此時、大方の讀者諸姉の中には多年螢雪の功なり、目出度御卒業の榮を荷はれたる方々も定めて多からむと存じ深く御喜び申上候、扨て之れよりの身のふりかたこそ肝心と存じられ候へ、更に高等なる教育を受けらるゝ人も、又は御兩親の膝下に止まりて家事の見習に從事せらるゝ人も、皆夫々に聰明なる方法と堅固なる決心が必要と存じ候、まして地方に在住せらるゝ方にして、都會の學校に入學せんと思はるゝ向は、學校寄宿監督者の選擇に就いて嚴密周到なる注意を拂はるゝ事をおすゝめ申上候。之れ等は特に最愛の子女を遊學せしめらるゝ父兄の留心せらるべき處かと信じ候、都會は誘惑の住家、如何にして人の子を陷れんかに日夜肝膽を碎きたる由に候へば、くれ〴〵も御注意なさるべく候。

▲本誌は專ら教養ある婦人の修養上の方面に於ける好伴侶たらん事を期し、此方針にて編輯致したり候、從つて賣らん哉主義の坊間の婦人雜誌とは全く別趣のものと相成事に候が、吾等は之を以て却つて吾等の誇りと致す處に有之候。

▲次號には想苑欄に於て德富蘇峰氏、向軍治氏の有益なる諸篇を掲載致すべく、在英内ヶ崎作三郎氏のゆきあたりばつたり染の續稿も已に到着致したり候へば、次號は内容大に豐富なる事を豫告致したき候、家庭欄に於ては海老名令夫人、元良令夫人など續々執筆致さるべく、海老名主幹安井主筆も亦修養の方面に於いて益々其健筆を振はるゝ筈に有之候。

▲又本號より「時事其折々」の欄を設けて内外社會の時事の解說を試み申候、之によりて特殊の問題に關する一般的の理解を讀者諸姉に呈し得る事と信じ候時事の解說に就き特に說明を要せらるゝ向あらば其問題を明記して御送りあらん事を願候、紙數の許す限に於て解說の勞をとるべく候。

▲海老名主幹は三月二十九日新橋發韓國に向はる可く歸京の期は本月十六日頃と可相成候。

▲野口末彥氏は愈々本月十五日令夫人と共に前橋に赴任せらる可く候。

▲吉野作造氏も本月十三日出帆の伊豫丸にて歐州留學の途に就かるゝ筈に候。安全なる航海を祈り申候。

▲投書を歡迎致し候、宛名は東京小石川區小日向臺町三丁目九十三新人社事務處に願上候。

本誌定價　一部金拾錢(郵稅ナシ)◎六冊半年分前金六十錢(郵稅ナシ)◎壹ヶ年分十二部前金壹圓拾錢(郵稅ナシ)

外國行定價　壹部金拾四錢(郵稅ナシ)◎半年分前金八拾錢(郵稅ナシ)一ヶ年分前金壹圓六拾錢(郵稅ナシ)

廣告料

一行廿七字詰	金廿五錢
四分ノ一頁	金三圓
半頁	金五圓
一頁	金十圓
内表紙十二圓	外表紙拾八圓

●數回引續き御掲載の向へは大割引可致候
●本誌代金は總て前金に御拂込み被下度候
●郵券代用は一割増の計算にて御送附被下度候

通信、爲換、寄贈雜誌等は必ず左の宛名に願上候

東京市小石川區小日向臺町三丁目九十三番地
新人社事務所
振替貯金口座一四〇〇五

明治四十三年三月二十六日印刷
明治四十三年四月　一日發行

發行兼編輯人　東京市小石川區林町四十三番地　海老名彈正
印刷人　東京市小石川區小日向臺町三ノ九三　野口末彥
發行所　東京府下豐島郡巢鴨村大字巢鴨六百六十一番地　新人社
印刷所　東京市赤坂區田町五丁目十一番地　齋藤活版所

最好評
樂器

松本製オルガン　十八圓以上三百圓迄

松本製ピアノ　三百圓以上二千圓迄

獨逸製ヴァイオリン　十圓以上二百圓迄

伊太利製マンドリン　十二圓以上六十圓迄

獨逸製ハーモニカ　三十錢以上二圓迄

其他西洋樂器並附屬品各種

新版目錄郵券二錢封入御申越次第進呈

調律修繕月賦販賣賃貸交換仕候

最新刊
樂書

小松玉巖先生編　名曲新集　金九十五錢　小包料八錢

下田歌子女史作歌澤田孝一先生作曲　晩秋　金十五錢　送料二錢

東京實踐女學校教授澤田孝一先生編　中等教材　眞美唱歌　金六十錢　送料六錢

オルガン獨習の栞　金三十錢　送料六錢

獨乙ペテルス音樂書出版會社發兌　ソナタ曲集　金七十五錢

ハーモニユム曲集　金五十錢

其他内外音樂書數一切賣捌致候

東京銀座

松本樂器合資會社

電話新橋二九八番　振替口座一三五〇五番

▲『人道講話』は教育的方面の講話を掲載す
▲『人道講話』は宗教的方面の講話を掲載す
▲『人道講話』は道德的方面の講話を掲載す

●乞ふ、本誌其の後の發展を看よ●

人道講話

每月一回一日發行
定價六錢郵稅五厘
壹年郵稅共七拾錢
但會員特待法あり

第三號(目次)四月一日發行

講話　修養につきて　文學博士　村上專精

一、修養の意義
二、修養の必要なる所以（以上第一號所載）
三、修養の必要なる原理＝(1)儒教に就きて―(2)佛教に就きて（以上第二號所載）
四、修養の分類＝(1)體格に對する修養―技藝に關する修養―知識に關する修養―情操に關する修養―意志に關する修養―最終理想の修養（以上第三號所載）
五、修養と教育―六、修養と宗教―七、修養と道德―八修養の方法―九、修養の目的―十、修養の結果（以上次號）

感話、雜錄（每號趣味多きものを掲載す）

人道講話會規約

會員募集

一、本會は教育、宗教及び道德に關する講話を直接又は通信に依つて聽かんと欲する者を以て組織す
一、本會本部を東京市小石川區丸山町東洋高等女學校內に置く
一、本會は文學博士村上專精氏を推して會長とし、其他幹事一名事務員若干名を置く
一、本會は本會の目的を達せんがため每月一回講話會を開き雜誌『人道講話』を發行す
一、本會は何人をも選ばず入會を許す
一、本會に入會志望の者は住所姓名を記し、壹ヶ年以上の會費を添へ本會本部に申込むべし
但し會費一ヶ月金五錢一ヶ年金六拾錢とす
一、本會々員には每月一回雜誌『人道講話』を無代にて配賦す

人道講話會
振替東京二〇三二四番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

京都御染物

本檳榔子黑
江戸褄模樣類
新柄小紋色々

東京市小石川茗荷谷町九三
京屋　佐藤松次郎

御一報次第直ちに參上可仕候

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新女界第壹卷
新人第拾卷

合本出來

裝釘堅牢優美永久保存に絕好也

定價
新女界 七拾五錢
新人 壹圓貳拾五錢
（郵税共）

右部數に限りあり希望の方は振替貯金にて至急御申越あれ

小石川小日向臺町三ノ九三
新人社事務所
（振替口座一四〇〇五）

新人四月號目次

◎社説
●聯合傳道運動　海老名彈正
◎教壇
●神の自現　海老名彈正
◎想苑
●現代日本の社會と基督教　慶應大學講師　向軍治
●自然及超自然　神學博士　高木壬太郎
●フェアバーン博士の基督教哲學を讀む　文學士　川島金五郎
●詩篇の宗教思想　山口金作
◎詩藻
●米國印象記（二）　中村春雨
●綠州の使徒ハンス、エヂード　リイス
●わだつみ　島の人
◎聖書研究
●シモン、ペテロ（三）　海老名彈正
◎雜俎
●教界側面觀　文學博士　三宅雪嶺
●廢翁の少壯時代　文學博士　姉崎正治
◎最近文藝
●三月の小說●春風錄　東禹生
◎東都講壇
●宗教界の大覺醒　松村介石氏●喧嘩兩成敗　田中王堂氏●吁小人國　巖谷小波氏●福音者の事業　植村正久氏
◎時觀
●信仰の主觀的立場　三並良氏　我は古典の愛玩さるゝを悲しむ　長谷川天溪●日本には世界的の著者なし　澤柳政太郎氏●靈覺の實驗談　村井知至氏●加藤博士の二問に就いて　鈴木宗奕氏
◎時評
●國民讀本を讀む●春宵漫語●宗教家の文藝に對する態度●信仰歸一の確信●●新神學の興起●義士の流行●阿諛と罵倒●安重根の死刑●日米關係の將來
◎彙報

院長診察月、水、木、金午前、松田醫學士診察火、土、午前、窮者施診、火、木、午前、入院診斷後隨時應需、松田、林、兩副長は目下當院に在勤、

電話本局（八八八病院用 八九八私宅用）

東洋內科醫院

東京市神田區駿河臺鈴木町二番地（御茶水橋畔）

院長 醫學士 高田畊安

神奈川縣相州高座郡茅ケ崎村濱（停車場所在）

電話茅ケ崎（二番）

南湖院

河野副長は目下當院に在勤、

院長診察土曜日午後〇同時窮者施診、

副長診察月、火、水、木、金、土、午前

入院診斷後隨時應需、

毎月一日一回發行

明治四十二年三月廿九日第三種郵便物認可

本誌愛讀者諸君は

ライオン歯磨を

使用したる後啻に口中の爽快を覺ゆるのみならず諸君の齒牙が如何に光澤を有し如何に健强となれるを知りや

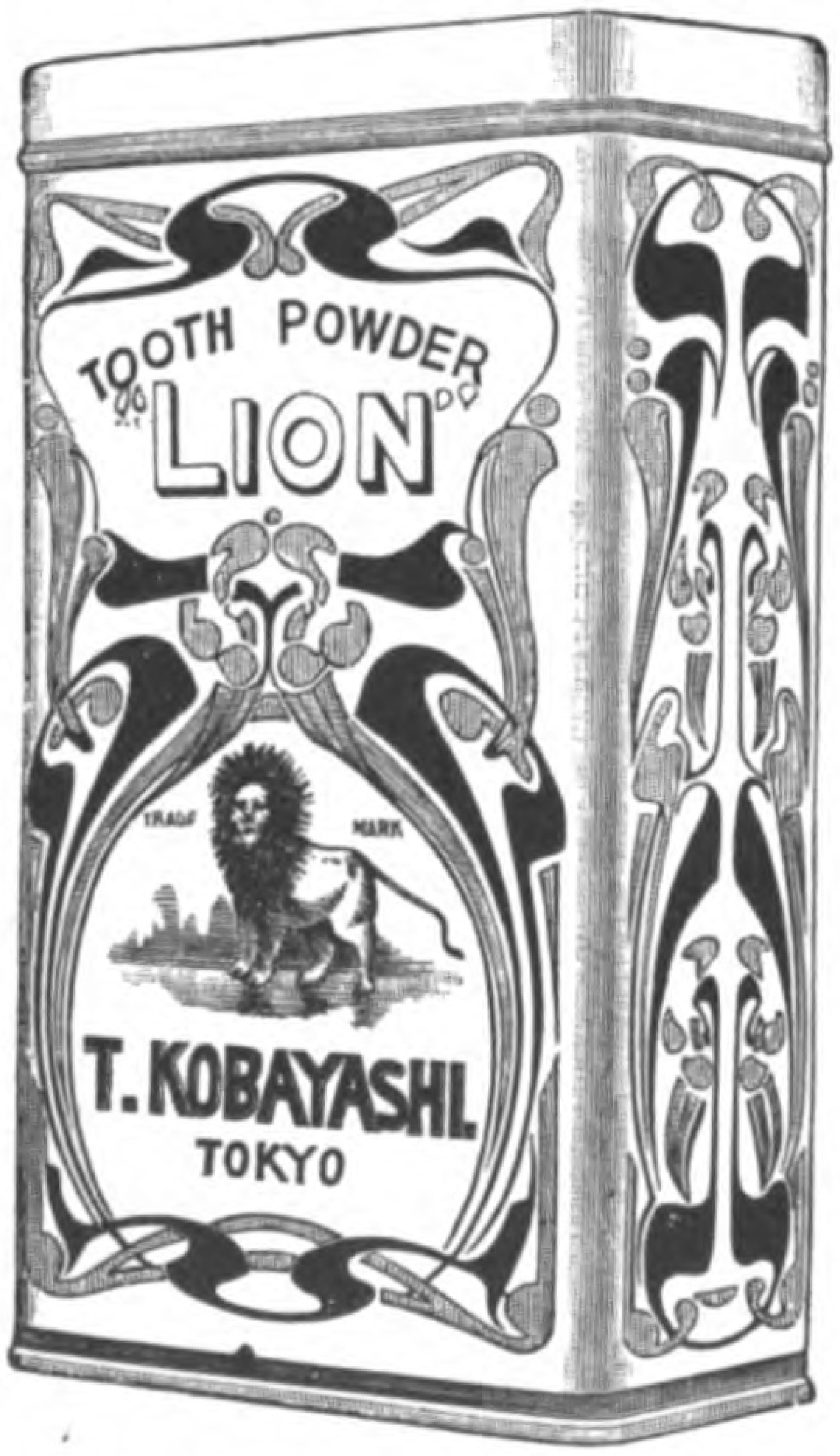
ライオン歯磨を

用ゐたる時の口中の爽快こ齒牙の清淨こは恰も入浴後に覺ゆる快感に等しきなり

家庭用 美術大罐入

最も御徳用向

體裁優美にして正味頗る多量而も價格の廉なるが故に家庭用こして好評嘖々たり



(定價 壹個 金廿五錢)

●試用見本御入用の方は振替貯金又は郵券代用にて申込あれ直ちに郵送す

發賣元 東京市神田區柳原川岸 小林富次郎

振替貯金口座東京二五二六番

支舖 大坂市東區博勞町 清國天津 漢口

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN